

令和3年度 教育委員会の事務 に関する点検評価報告書



令和4年11月
海津市教育委員会

目 次

I はじめに	・・・・・・・・ 1
(1) 趣旨	
(2) 点検・評価の対象	
(3) 点検・評価の方法と評価区分（基本施策ごとの評価について）	
(4) 点検・評価結果の構成	
II 教育委員会の会議及び教育委員の活動	・・・・・・・・ 4
(1) 会議の開催	
(2) その他の活動状況	
①教育委員の研修状況	
②教育委員の学校訪問等	
③総合教育会議への出席	
④教育委員の関係行事等への出席	
⑤広報活動	
(3) 新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた対応経過	
III 教育委員会の施策 点検・評価	・・・・・・・・ 9
(1) 教育振興基本計画の基本理念	
(2) 基本的観点	
(3) 計画の体系	
(4) 内部進捗評価一覧表	
(5) 施策の総合点検評価	
IV 教育委員会の施策 外部評価	・・・・・・・・ 60
(1) 外部評価一覧表	
(2) 外部評価（学識経験による意見）	

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抄)」

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

I はじめに

(1) 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「法」という）の規定により、平成20年4月1日から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、市民に公表することが義務付けられています。

この法の趣旨に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たすことを目的として、海津市教育委員会の事務に関する点検及び評価を実施するものです。

(2) 点検・評価の対象

平成31年3月に策定した「第2次海津市教育振興基本計画」における、教育委員会の所管となる6つの基本目標のもと20の施策を点検と評価の対象としています。

(3) 点検・評価の方法と評価区分（基本施策ごとの評価について）

点検・評価は、教育振興基本計画に基づき長期的な視野に立って教育行政を推進していくためには、P（Plan：計画）、D（Do：実行）、C（Check：点検・評価）、A（Action：改善）のマネジメントサイクルによる進行管理の中で毎年度、点検・評価を実施し、評価結果を十分に活用して次年度以降の具体的な事業を検討することが必要となります。そのため、令和3年度に実施した事業の取り組み状況を明らかにするとともに、今後の課題と対応の方向性を示すこととしています。

また、点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する外部の方から外部検証評価と意見、助言をいただきます。

(4) 点検・評価結果の構成

ア. 基本目標・施策・施策方針

第2次海津市教育振興基本計画に掲げる基本目標です。

イ. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

基本目標・施策に関する進捗評価を実施しています。また、進捗評価の理由及び今後の方向性についても記載しています。

進捗の評価区分 (4段階)	S・・・・・・・・予定以上に進んでいる。 A・・・・・・・・予定どおり進んでいる。 B・・・・・・・・少し遅れている。 C・・・・・・・・大幅に遅れている。
------------------	---

ウ. 参考とする指標

第2次海津市総合計画

エ. 基本施策に関する評価シート

20の施策に掲げたそれぞれの「基本施策」をシートに取りまとめています。

①基本施策〔取組目標 年度計画〕

各施策に掲げられた取り組むべき目標とその年度の計画を示しています。

②基本施策〔実績成果 課題〕

年度計画の実施に伴いその内容と成果及び課題等を示しています。

③内部評価

基本施策に伴う実績成果・課題を踏まえ4段階評価をしています。

◎・・・・・・・・十分達成

○・・・・・・・・おおむね達成

△・・・・・・・・やや不十分

×・・・・・・・・達成できず

記載事項説明書

第2次海津市教育振興基本計画における「基本目標」と「施策の方針」と「基本施策」

施策の総合点検評価		担当課	こども課	
基本目標	1 子ども・子育て支援の充実	外部 検証 評価	外部評価	
施策	2 子育て家庭への支援の充実			
施策方針	すべての家庭が安心して子育てでき、育てる喜びを感じられるように子育て支援サービスを充実します。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討	
1. 施策の進捗状況		進捗の評価 S A B C 方向性		
進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など	
S	予定以上に進んでいる	進捗評価の理由および施策の方向性などを記載		
A	予定どおり進んでいる			
B	少し遅れている			
C	大幅に遅れている			
参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)				
成果指標		策定時(H27)	実績値(R3)	目標値(R3)
地域子育て支援拠点 延べ利用者数		17,838人		15,000人
留守家庭児童教室利用者数		360人		360人
基本施策に関する評価シート(★は令和2年度の重点的な取り組み)		行政評価の実績値を記載		内部評価(所属課) ◎ ○ △ ×
多様な子育て支援サービスの充実				
取組目標	子育て支援ニーズを把握し、計画的に子育て支援サービスを支援できる体制を整備します。また、共働き世帯が働きながら安心して子どもを預けられるように低年齢児保育事業、延長保育事業、一時預かり事業、留守家庭児童教室事業などの多様な子育て支援サービスの充実に努めます。			内部評価
年度計画	Plan「P」(計画)			check「C」(評価)
実績成果	Do「D」(実行)			
課題	Action「A」(改善)			◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

重点的な取り組み「★」

Ⅱ 教育委員会の会議及び 教育委員の活動

Ⅱ 教育委員会の会議及び活動状況

令和3年度の教育委員会の活動について、「教育委員会会議」と「学校訪問」などの項目に分け、教育委員会による点検を行いました。

(1) 会議の開催

教育委員会会議は、原則として毎月1回の予定で開催することとして、令和3年度の開催は14回、付議された議案は合計122件でありました。

以下、令和3年度の開催状況の詳細を報告します。

○令和3年度教育委員会会議の開催状況

回数	期日	案件
第1回	令和3年4月2日(金)	2件
第2回	令和3年4月28日(水)	9件
第3回	令和3年5月19日(水)	16件
第4回	令和3年6月17日(木)	5件
第5回	令和3年7月20日(火)	14件
第6回	令和3年8月16日(月)	5件
第7回	令和3年9月14日(火)	2件
第8回	令和3年10月18日(月)	5件
第9回	令和3年11月15日(月)	8件
第10回	令和3年12月21日(火)	16件
第11回	令和4年1月14日(金)	13件
第12回	令和4年2月16日(水)	9件
第13回	令和4年3月8日(火)	7件
第14回	令和4年3月25日(金)	11件
合計		122件

ア 議案について

教育委員会の権限に属する事務の執行は、「海津市教育委員会教育長事務委任規則^{※1}」第2に掲げるものを除き、その権限を教育長に委任すると定められていますが、一方で、同規則第3条は委任された事務についても重要かつ異例の事態が生じたときは教育委員会の決定に委ねるとしており、実際には、重要事項の多くは教育委員会の会議の場で決定され、令和3年度に付議された議案は、全て会議規則に従い適切に処理されました。

また、議事の終了後には、事務局各課から事業の実績・進捗状況及び計画等について報告又は説明を行い、今日的な教育課題への対応等、共通の認識を持ちつつ理解を深めることと致しました。

海津市教育委員会教育長事務委任規則 (抜粋) ※1

(事務委任)

第2条 教育委員会は、次に掲げる事項を除き、その権限に属する事務を教育長に委任する。

- (1) 学校教育又は社会教育に関する一般方針を定めること。
- (2) 学校、図書館、博物館、公民館その他の教育機関の設置及び廃止を決定すること。
- (3) 1件1,000万円を超える教育財産の取得を市長に申し出ること。
- (4) 県費負担教職員の懲戒及び任免その他の進退について内申すること。
- (5) 県費負担教職員のサービスの監督の一般方針を定めること。
- (6) 前2号に定めるもののほか、人事の一般方針を定め、及び懲戒を行うこと。
- (7) 県費負担教職員以外の学校、図書館、博物館、公民館その他の教育機関及び事務局の職員(臨時的任用職員及び非常勤の職員を除く。)の任免その他の人事に関すること。
- (8) 県費負担教職員以外の学校、図書館、博物館、公民館その他の教育機関及び事務局の職員(臨時的任用職員及び非常勤の職員を除く。)の懲戒に関すること。
- (9) 1件1,000万円以上の工事の計画を策定すること。
- (10) 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃を行うこと。
- (11) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を市長に申し出ること。
- (12) 法律若しくは、これに基づく政令又は条例に基づき置かれている附属機関の委員又は委員を委嘱すること。
- (13) 校長、教員その他の教育関係職員の研修の一般方針を定めること。
- (14) 学齢児童生徒の就学すべき学校の区域を設定し、又はこれを変更すること。
- (15) 公文書の公開の決定に関すること。
- (16) 個人情報の開示、請求及び削除の決定に関すること。
- (17) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第26条の規定による点検及び評価に関すること。

イ 議事について

簡易な事務手続き等の案件を除き、条例や規則の改正あるいは、事業計画の承認等、重要事項の審議は、問題意識を共有して事業効果の高い結果が得られるよう、事務局に詳細な説明を求め、活発な議論が展開されました。

また、事務局は、資料の提示や詳細な説明等、より多くの情報提供や円滑な会議の運営に努めました。

(2) その他の活動状況

教育委員は、教育委員会の会議以外にも研修や学校訪問等の実施あるいは、関連する教育団体との懇談などに参加しました。

①教育委員の研修状況

事業名	期 日	場 所	内 容
視察研修	令和3年12月17日(金)	ぎふメディアコスモス、岐阜かかみがはら航空宇宙博物館	社会教育分野等の施設を視察

②教育委員の学校等訪問

教育委員会会議の開催に合わせて、令和3年度においては、市内の小・中学校等を訪問し、子どもたちの学びの様子や学校の運営方針、施設、教育環境、授業等、様々な視点で、その学校の良さや、抱えている課題などを把握することに努めました。

期 日		訪問先等
5月	28日(金)	大江小学校
6月	3日(木)	高須認定こども園
	9日(水)	今尾小学校
	10日(木)	海西小学校
	17日(木)	石津小学校
	25日(金)	日新中学校
6月	29日(火)	今尾認定こども園
7月	2日(金)	平田中学校
	6日(火)	石津認定こども園
	7日(水)	吉里小学校
9月	14日(火)	西江小学校
	29日(火)	高須小学校
	30日(木)	下多度小学校
10月	15日(金)	城南中学校研究発表会
11月	2日(火)	東江小学校研究発表会
	17日(火)	城山小学校研究発表会

③総合教育会議への出席

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正に伴い、平成27年度から「海津市総合教育会議」を設置しました。会議は、市長と教育委員会で構成され、互いが十分な意思疎通を図り教育課題を共有して、より一層、民意を反映した教育行政を推進するために市長が招集するもので、以下のとおり開催され出席しました。

回数	期 日	場 所	案 件
第1回	令和3年7月20日（火）	海津市役所 東館 4-2会議室	2件
第2回	令和4年2月16日（水）	海津市役所 東館 4-1会議室	2件

④教育委員の関係行事等への出席

	期 日	主要行事等	場 所
4月	7日（水）	小中学校「入学式」	各小中学校
	8日（木）	認定こども園「入園式」	各認定こども園
3月	8日（金）	中学校「卒業式」	各中学校
	24日（木）	小学校「卒業式」	各小学校
	25日（金）	認定こども園「卒園式」	各認定こども園

⑤広報活動

定期的に行う教育委員会会議をはじめとして、その主な活動は、海津市ホームページで公開しました。

今後もより一層、市民の皆様のご理解とご協力を得るため、広報紙やホームページ等を工夫する必要があると考えています。

Ⅲ 教育委員会の施策 点検・評価

(1) 教育振興基本計画の基本理念

本市は、平成29年(2017年)3月、まちづくりの基本的な方向を示す「第2次総合計画」を策定しました。本市の優れた自然環境の中で、安心して子育てができ、働き、生活ができるまちとなるように、目指すべき将来像として「水と緑と人がきらめく 輪でつながるまち 海津」を掲げております。その中で、教育施策の柱として「個性と創造性を培うところ豊かなまちづくり」を進めています。

一方、教育の一層の振興を図っていくためには、今後の本市の教育を見据えた基本的な方向を明確にするとともに、その実現に向けて、どのような教育施策を、どのように進めていくかを明らかにしていく必要があります。

そのため、海津市教育振興基本計画の基本理念を引き続き「いのちをつなぐ教育」として継承し、市民が心豊かな一人一人がともに生きる喜びを感じる教育を目指しています。

【基本理念】

「いのち」をつなぐ教育

心豊かな一人一人がともに生きる喜びを感じる教育

(2) 基本的観点

世代をつなぐ 『世代がつながり 生き方を育む』

- ①「生きる力」の基礎を育み、自立できる力をつける。
- ②「生きる力」を育み、豊かな人間性を身につける。
- ③生きがいと共生を地域の中での学習活動を通して目指す。
- ④多様なニーズを要する子どもたちに学習支援の充実を目指す。

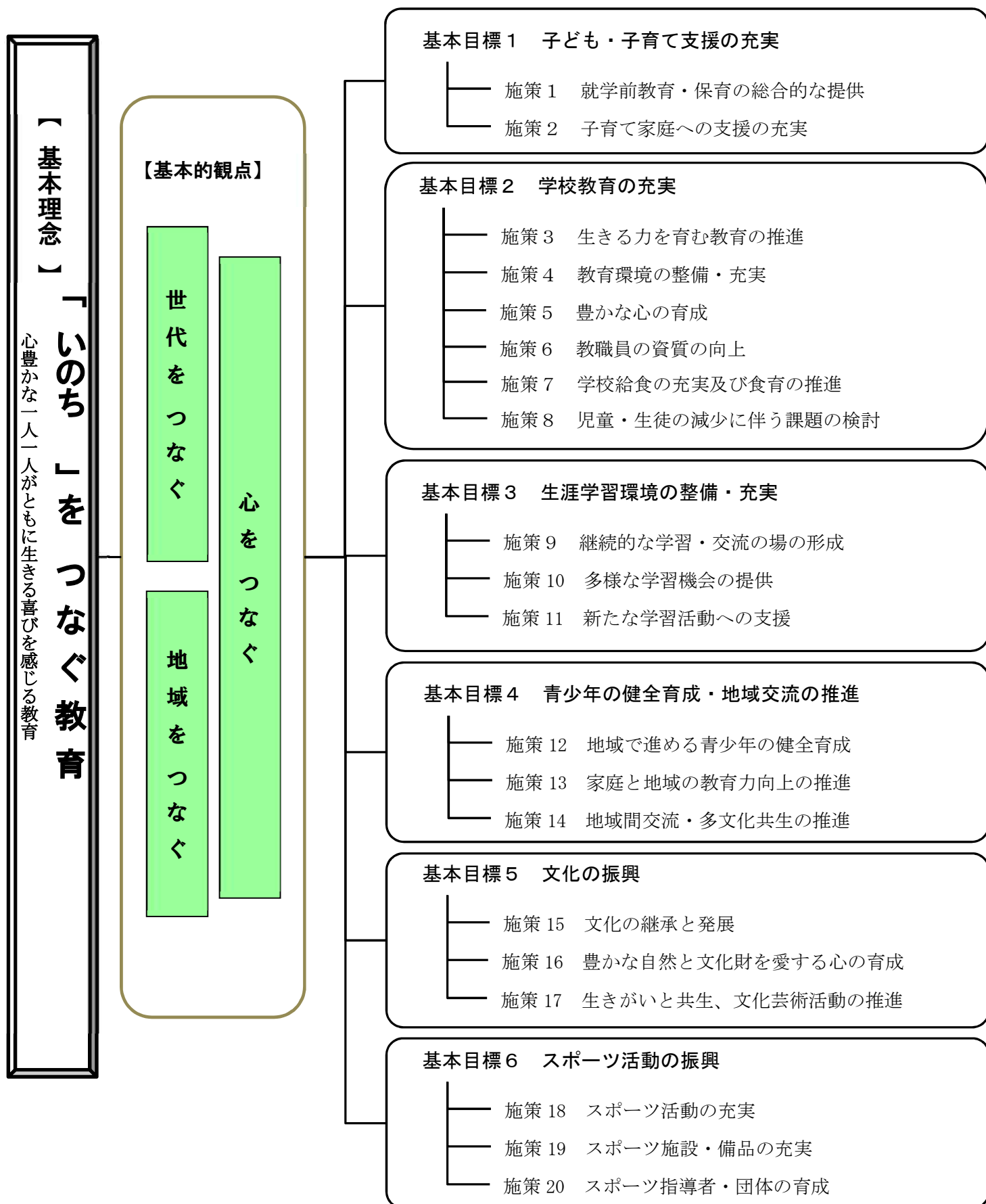
地域をつなぐ 『地域がつながり 生きる喜びを感じる』

- ①家庭の教育力を高めるための学習機会や情報提供を充実させる。
- ②地域がつながり、地域ぐるみで良好な環境づくりを進め、青少年の健全育成を進める。
- ③地域に根ざし、市民のつながりを生み出すスポーツ・レクリエーション活動の活性化を図る。
- ④歴史上や姉妹都市等、関わりのある市町とのつながり、交流を行い、地域づくりを進める。

心をつなぐ 『心がつながり 愛情と思いやりに溢れる人を創る』

- ①心のふれあいを大切に、温かい人間関係をつくる。
- ②海津の文化を愛し、継承・発展を進め、郷土を愛する心を育む。

(3) 計画の体系



(4) 内部進捗評価一覧表

第2次海津市教育振興基本計画 「基本目標」		
【基本目標の施策】	担当課	
基本施策	進捗評価	内部評価
「基本目標1」 子ども・子育て支援の充実		
【施策1】 就学前教育・保育の総合的な提供	こども課	
① 認定こども園における幼児教育の推進	A	○
② 小学校との連携		○
③ 配慮が必要な子どもへの支援		○
④ 就学前教育・保育施設の整備		○
⑤ 保育教諭の資質向上		○
【施策2】 子育て家庭への支援の充実	こども課	
① 多様な子育て支援サービスの充実	A	○
② 相談体制の充実		◎
③ 情報提供の充実		○
「基本目標2」 学校教育の充実		
【施策3】 生きる力を育む教育の推進	学校教育課	
① 「軸」を明確にした学校経営の推進	A	○
② 確かな学力を身につけることで「生きる力」を育む指導の充実		◎
③ 基礎的な知識・技能を着実に身につける指導や取組の充実		◎
④ 思考力・判断力・表現力などを育成する指導や取組の充実		○
⑤ 学びに向かう力を高める取組の充実		○
⑥ 多様なニーズを要する子どもに対応した教育機会の充実		○
⑦ 外国語活動の充実		○
⑧ キャリア教育の推進		○
⑨ 郷土学習の推進		○
【施策4】 教育環境の整備・充実	教育総務課・学校教育課	
① 学校施設の老朽化対策及び長寿命化対策の推進	A	○
② 教育環境における情報機器設備の充実		◎
③ 安全な通学路の確保		○
【施策5】 豊かな心の育成	学校教育課	
① 道徳教育の充実	A	○
② 多様な体験活動の推進		○
③ 人権同和教育の推進		○
【施策6】 教職員の資質の向上	学校教育課	
① 「海津市教育のスタンダード」の活用	A	○
② 教職員研修の充実		○
③ 特別支援教育に関わる教職員の研修		○
④ 研究授業や公開授業、交流授業などの促進		○
⑤ 子どもと向き合う時間の確保		○
【施策7】 学校給食の充実及び食育の推進	教育総務課(給食センター)	
① 地域全体で取り組む食育の推進	A	○
② 学校給食の充実		○
③ 学校給食の衛生管理と事故防止の徹底		○
④ 学校給食センターの効率的な運用・整備		○
⑤ 学校における事務負担の軽減		△
⑥ 給食の提供における緊急対応		○
【施策8】 児童・生徒の減少に伴う課題の検討	教育総務課	
① 海津市小中学校の適正規模等に関する検討委員会の設置と協議	A	◎
「基本目標3」 生涯学習環境の整備・充実		
【施策9】 継続的な学習・交流の場の形成	社会教育課	
① 生涯学習ニーズの把握	A	○
② 学習情報の収集・整備		○
③ 社会教育施設などの整備とネットワーク化		○

第2次海津市教育振興基本計画 「基本目標」

【基本目標の施策】		担当課	
基本施策		進捗評価	内部評価
「基本目標3」 生涯学習環境の整備・充実			
【施策10】 多様な学習機会の提供		社会教育課	
① 生涯学習活動と指導者の育成	A		○
② 生涯学習の意識啓発			○
③ 図書館や歴史民俗資料館などの学習機関の機能充実			○
【施策11】 新たな学習活動への支援		社会教育課	
① 学習活動を支援する人材の活用	A		○
② 高齢者のもつ技能の伝承			○
③ 学習機会の充実			○
「基本目標4」 青少年の健全育成・地域交流の推進			
【施策12】 地域で進める青少年の健全育成		社会教育課	
① 「こども健全育成指針」の推進	A		△
② 子どもの生活習慣の確立に向けた支援			○
③ 組織的な活動の充実			◎
④ 青少年教育の充実と地域社会の教育力の向上			○
【施策13】 家庭と地域の教育力向上の推進		社会教育課	
① 「あたりまえ」のことができる家庭教育支援の推進	A		○
② 子育て学習の提供と家庭教育相談体制の充実			◎
③ 地域と連携した活動の充実			○
【施策14】 地域間交流・多文化共生の推進		社会教育課	
① 交流教育の充実	B		○
② 多文化共生の推進			△
「基本目標5」 文化の振興			
【施策15】 文化の継承と発展		社会教育課	
① 指定文化財の保存・保護活用、後継者の育成	A		○
② 文化財や伝統芸能の資料収集及び調査研究			◎
③ 文化資源の活用			○
④ 文化財指定基準の運用			○
【施策16】 豊かな自然と文化財を愛する心の育成		社会教育課	
① 文化財の情報発信と周知	A		△
② 自然・歴史資源の発見と活用			○
③ 歴史民俗資料館運営の充実			○
【施策17】 生きがいと共生、文化芸術活動の推進		社会教育課	
① 市民文化活動への支援	A		○
② 文化や芸術に親しむ機会の提供			○
③ 市民参加型による芸術創作活動の奨励			○
④ 多様な文化芸術活動の支援			○
「基本目標6」 スポーツ活動の振興			
【施策18】 スポーツ活動の充実		スポーツ課	
① 子どものスポーツ活動の推進	B		○
② 高齢者や障がい者スポーツ活動の推進			△
③ 市民参加型スポーツ活動の推進			△
④ スポーツ観戦機会の創出			△
【施策19】 スポーツ施設・備品の充実		スポーツ課	
① 体育施設の充実	A		○
② スポーツ備品の充実			○
【施策20】 スポーツ指導者・団体の育成		スポーツ課	
① スポーツ団体の育成	A		○
② 指導者の育成と確保及び活用			○
③ 競技スポーツ活動の支援			○

基本目標 1

子ども・子育て支援の充実 (こども課)

※ただし、「こども課」は、令和4年4月1日より組織再編に伴い、市長部局に移管し、「こども未来課」で評価を行った。

(5) 施策の総合点検評価

担当課

こども課

基本目標	1 子ども・子育て支援の充実	外部 検討 評価	継続・妥当
施策	1 就学前教育・保育の総合的な提供		
施策方針	子どもたちの「生きる力」の基礎を育て、心身の発達を促します。	評価 段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	研究会、研修や巡回相談などを通じて、幼児教育・保育の質の向上、小学校や関係機関との連携を図ることができた。「海津市公立認定こども園民営化・統廃合計画」を進め、令和5年4月の「今尾コスモスこども園」開園に向け準備を進めることができた。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R3)	目標値 (R3)
特定教育・保育施設 延べ利用者数	1,050人	793人	800人
待機児童数	0人	0人	0人

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和3年度の重点的な取り組み)

①認定こども園における幼児教育の推進

取組目標	子どもがのびのびと活動できる環境設定とふさわしい基本的な生活習慣、規範意識、道徳性が身につくよう指導計画や指導方法の充実を図る。また、自然体験、生活体験、社会体験の学習機会の導入に努める。	
★ 年度計画	公立認定こども園では、指導主事訪問の実施や県主催の研修会や公開保育の場を通じて、保育の質の向上を図る。認定こども園の幼児教育において、様々な体験活動を導入し、園児の知的好奇心や学ぶ意欲を向上させていく。	内部評価
★ 実績成果	指導主事訪問の実施や県主催の研修会などに参加し、保育や指導方法の充実につなげることができた。また、活動が制限される中、実施方法を工夫し英語教室、サッカー教室、お茶会など様々な体験学習を行った。	○
課題	指導や研修内容は園内研修などで情報共有を行うが、全ての保育教諭が参加できる時間や機会の確保が課題である。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

②小学校との連携強化

取組目標	園・小連携協議会などを通じて、園児と児童の交流や教職員と保育教諭の交流を実施し、相互に子どもの発達や学びに対する理解を深め連携強化を図る。また特別に配慮を要する子どもについては、関係諸機関と情報を共有し、途切れのない支援をつなげていく。	
年度計画	園・小連携協議会や小学校との交流活動を通じて、園児と児童・教職員と保育教諭の交流を実施し、一層の相互理解を深め連携を図る。また、特別に配慮を要する子どもについては、関係機関と連携して途切れのない支援をつなげていく。	内部評価
実績成果	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、園児と児童の交流活動はできなかったが、園・小連携協議会などにより就学児の情報を共有することができた。特別に配慮を要する園児についても発達支援センター「くるみ」など関係機関と連携し、適切な支援につなげることができた。	○

課題	コロナウイルス感染症対策のため、園児と児童の交流活動、コロナ禍による保育参観や授業参観については、実施方法など検討が必要である。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
----	--	--

③配慮が必要な子どもへの支援

取組目標	市発達支援センターが中心となり、巡回相談を通じて障がいなどの早期発見、早期支援に努める。また、障がいのある子を受け入れるように、保育教諭などを加配する療育支援体制強化事業を促進する。	
年度計画	市発達支援センターくるみ主催の巡回相談（年2回）や自主研修会（年8回）を通じて、障がいなどの早期発見や適切な支援について情報を共有し、関係機関との連携を図る。障がいのある子を受け入れるよう療育支援体制強化事業を活用し、体制を整える。	内部評価
実績成果	全園を対象とした巡回相談や研修会を通じて、適切な支援方法や関係機関との連携をとることができた。また、療育支援体制強化事業を私立4園が活用し、体制を整えることができた。	○
課題	園児の園生活の様子を保護者と共有を図る必要があるが、コロナ禍による保育参観など行事や活動が制限されるなか、認識の相違を解消する方法を検討する必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

④就学前教育・保育施設の整備

取組目標	人口減少に対応した市内全域における就学前施設の適正配置の検討を進める。また、子どもが安全で安心して生活でき、災害発生時にも一時避難ができる安全な施設や設備の環境整備に努める。	
年度計画	市の公共施設等総合管理計画に基づき、公立認定こども園の統廃合や民営化について協議・検討する。また、各認定こども園において、災害時の避難確保計画を作成し、一時避難ができるよう施設の環境整備の検討を図る。	内部評価
実績成果	「海津市公立認定こども園民営化・統廃合計画」に基づき、生涯学習センターを改修し、今尾認定こども園と秋桜こども園を統合した新たなこども園の事業者を選定し、令和5年4月開園に向けて準備を進めることができた。	○
課題	進行する少子化と施設の老朽化状況から、さらなる統廃合も視野に検討が必要である。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

⑤保育教諭の資質向上

取組目標	就学前の子どもが同一水準で質の高い教育・保育を受けられるように、海津市幼児教育・保育研究会での研究・研修を進める。また、認定こども園での教育・保育内容の充実を目指し、市の保育協会などによる各種研修や交流機会を充実し、保育教諭などの資質向上を図る。	
年度計画	毎年テーマを決めて、市幼児教育・保育研究会を年5回開催し、研究・研修を進める。また、市保育協会による研修会に参加し、公立・私立の保育教諭の交流と資質向上を図る。	内部評価
実績成果	「言葉を豊かにするための教育・保育」をテーマに、市内全園の5歳児担任と小学校教諭(代表3校)が参加し公開保育、公開授業による研究を行い幼児教育の理解を深めることができた。	○
課題	幼児教育・保育研究会は開催できたが、保育協会主催による研修会は開催できなかったため、指導書籍や研修用DVDにて各園で研修を行ったが、他園との理解のずれや意見交換の方法が課題である。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

施策の総合点検評価

担当課

こども課

基本目標	1 子ども・子育て支援の充実	外部 検証 評価	拡充・推進
施策	2 子育て家庭への支援の充実		
施策方針	すべての家庭が安心して子育てでき、育てる喜びを感じられるように子育て支援サービスを充実します。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	「第2期海津市子ども・子育て支援事業計画」に沿って施策を実施することができた。今後は、多様化するニーズへの対応や、子ども家庭支援拠点との連携強化を図り、相談・支援の充実を進めていく必要がある。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R3)	目標値 (R3)
地域子育て支援拠点 延べ利用者数	17,838人	11,613人	15,000人
留守家庭児童教室利用者数	360人	345人	360人

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和3年度の重点的な取り組み)

①多様な子育て支援サービスの充実

取組目標	子育て支援ニーズを把握し、計画的に子育て支援サービスを支援できる体制を整備する。また、共働き世帯が働きながら安心して子どもを預けられるように低年齢児保育事業、延長保育事業、一時預かり事業、留守家庭児童教室事業などの多様な子育て支援サービスの充実に努める。	
年度計画	令和2年度から5年間を計画期間とする「第2期海津市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、幼児期の学校教育や保育、地域の子育て支援を総合的に推進していく。	内部評価
実績成果	保護者が安心して子どもを預けて働ける環境を提供するため、全園において、低年齢児保育、延長保育、一時預かり事業を実施した。また、留守家庭児童教室は、全小学校下で開室しており、家庭に代わる遊びと生活の場を提供することができた。	○
課題	「第2期海津市子ども・子育て支援事業計画」に沿って施策を実施できたが、少子化の進展や、新型コロナウイルス感染症の影響もあり数値目標が達成できていない事業もあるため、目標値の見直しが必要である。家庭環境の変化や就園の低年齢化に伴い、子育て世代への支援策の検討が必要である。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



高須認定こども園(すこやか園舎)



今尾認定こども園

②相談体制の充実

取組目標	地域子育て支援拠点事業を提供し、子育てに不安や悩みをもっている親に対する相談・援助の機能を充実させる。また、市民が積極的に子育て支援に関わることを促進し、地域子育て機能の強化を図るとともに、子育てを支援する人材の育成に努める。	
★年度計画	子育て世代包括支援センター事業について、市の部局(健康課)と連携し、相談体制を推進する。また、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない総合的な支援を提供し、地域子育て機能の強化を図る。	内部評価
実績成果	親子が交流する場の提供、育児相談、子育て講座を実施し、3,353人の参加があった。また、ベビーの日を設けるなど、対象年齢を絞った行事や活動を取り入れたり、乳児検診の会場で案内を配布し、利用促進につなげた。	◎
課題	少子化、入園の低年齢化により、利用者数も減少傾向であるが、育児不安やコロナ禍などでの親子の孤立を解消するために、さらなる利用促進を促す方法の検討が必要である。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③情報提供の充実

取組目標	「海津市子育て支援ガイド」を定期的に作成し、子育てに携わる市民や転入者に配布し、子育て支援サービスの利用を促進する。また、本市での子育てに関する情報を発信するホームページ「海津市子育て支援サイト」の充実に努める。	
★年度計画	市ホームページや「キッズコミュ海津市子育てフェイスブック」を通じて、子育てに関する情報を発信する。	内部評価
実績成果	市報・ホームページ等を活用し、子育て支援だよりや活動内容について、定期的に発信することができた。	○
課題	私立園より実施している子育て支援拠点事業の情報を共同で発信したいとの提案があるが、各園でネットワーク環境等が異なっているため、統一することが課題である。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



石津認定こども園



子育て支援センターかいづ

基本目標 2

学校教育の充実

(教育総務課・学校教育課)

施策の総合点検評価

担当課

学校教育課

基本目標	2 学校教育の充実	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	3 生きる力を育む教育の推進		
施策方針	子どもたちが確かな学力を身につけることで「生きる力」を育み、豊かな人間性を育てていきます。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	各学校、思考力・判断力・表現力と主体的に学ぶ力を育てる授業を実施するために、GIGAスクール構想で整備されたICT環境を活用できる施策を重点的に取り組んだ。ICT支援員の配置、オンライン実証実験、臨時休業中における県下唯一のオンライン授業の実施、AIドリルや電子書籍の導入、持ち帰りのための保護バックやACアダプターの貸与などスピード感を持って実施し、ICT教育の先駆的な取組ができた。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R3)	目標値 (R3)
学校が楽しいと思っている児童・生徒の割合	80%	78.1%	100%

学習状況調査結果より(対象:小6、中3)

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和3年度の重点的な取り組み)

①「軸」を明確にした学校経営の推進

取組目標	学校の特色を活かし、目指す子どもの姿をもとに目標を掲げ、それを具現化に向けた「軸」を明確にした学校経営を行う。	内部評価
年度計画	校長が「軸」を明確にした学校経営を行う。また、市教委訪問、生徒指導訪問などの機会を通して達成状況を見届け支援をする。	
実績成果	各学校で校長が示す「軸」をもとに学校運営ができた。全ての学校に、市教委訪問と生徒指導訪問をそれぞれ年1回ずつ行った。訪問では各学級でICT機器を活用した授業を参観した。校長の学校経営方針をもとに、教職員や児童生徒の様子や教頭、教務主任、生徒指導主事の取組について助言ができた。	
課題	地域の特色、児童数など学校の特色をさらに生かした学校経営を、校長のリーダーシップのもとで行っていく。引き続き、学校訪問の機会に児童生徒の様子から各学校の達成状況を見届ける必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

②確かな学力を身につけることで「生きる力」を育む指導の充実

取組目標	学習のねらいを明確にし、「生きる力」を一人一人に対し育成していくための指導の工夫と充実を図る。	内部評価
年度計画	学習のねらいを明確にした。指導計画に基づいた教育を行う。また、各種指導計画の作成状況を確認する。	
実績成果	各学校で教育計画を作成し、計画に基づいて、ねらいを明確にした授業を行うことができた。各種全体計画・指導計画についても、全ての小中学校で作成したものをまとめることができた。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、9月に8日間、学校が臨時休業となったが、海津市全小中学校でオンライン授業を行い、学習を保障することができた。	

課題	今までの指導計画の中に、ICT機器を活用した学習活動を積極的に取り入れて行く必要がある。ICT推進委員を中心に、教育実践の蓄積をしていく。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
----	---	--

③基礎的な知識・技能を着実に身につける指導や取組の充実

取組目標	子どもたちに、生きて働く知識・技能を身につけるために、だれもがわかる授業を展開していく。また、間違いやすい学習内容の確実な習得を目指すため繰り返し学習を行う。そのためにコンピュータの活用をはじめ実態に応じた個別学習の充実を図るなどして知識・技能の習得に努める。	
★年度計画	国と並行しながら小学校の教科担任制を導入したり、少人数指導を行ったりして、子どもたちに「深い学び」の知識習得に努める。また、タブレット端末を活用して個別最適化された学習を目指す。	内部評価
★実績成果	デジタル教科書と大型モニターを活用し、視覚的にも分かる授業を仕組むことができた。また、11月から小学校5・6年、中学校1・2年にAIドリルを導入し、個々にあった問題を解きながら知識・技能を習得するようにした。全小学校で教科担任制を実施。小学校の算数、中学校の数学・英語で少人数指導を実施し、教師の専門性を生かした授業や個に応じた授業を行うことができた。	◎
課題	令和4年度には、学習者用デジタル教科書の実証事業が行われる。学習に対する興味関心を引き出し、誰もが分かる授業にするために、学習者用デジタル教科書の有効利用に努める必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

④思考力・判断力・表現力などを育成する指導や取組の充実

取組目標	国語をはじめ各教科などにおいて、記録、要約、説明及び論述などの言語活動を取り入れ、言語の力を高めるための学習環境の充実を目指す。また、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、タブレットや電子黒板などを活用し、様々な授業形態の工夫などの授業改善に努める。	
★年度計画	言語活動を取り入れた授業改善を図る。1人1台端末や電子黒板などを活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。	内部評価
★実績成果	全ての学校で、思考力・判断力・表現力を高める指導をすることを目的に、校内研究が行われた。東江小、城山小、城南中において研究指定校発表会を行い、主体的・対話的で深い学びを実現する授業の在り方について、市内教職員で研究成果を共有することができた。	○
課題	主体的・対話的で深い学びを目指す新学習指導要領が、小学校・中学校ともに実施されている。仲間と学びあう仕組みやICTを活用した個別最適化された学びをさらに推進していく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

⑤学びに向かう力を高める取組の充実

取組目標	独自の教材や学習環境を積極的に活用することで楽しい授業づくりを進める。また、校外学習や体験活動の機会を増やすことや、専門性の高い外部講師を招くなど、子どもたちの学習に対する興味や関心を高めるように努める。	
★年度計画	校外学習や体験活動、外部講師の講話などの機会を充実させ、児童生徒の学習に対する興味・関心を高めるように努める。また、児童生徒の主体的な学びに繋がるよう、タブレット端末を活用した授業改善を図る。	内部評価
★実績成果	新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しながら、校外学習を再開した。自然に触れたり施設で学んだりする体験活動を実施した。講師を招いての授業も多くの学校で行われた。全小中学校でタブレットを活用した授業が多くなり、総合的な学習の時間での調べ学習だけでなく、グループ交流、プレゼンテーション発表など、タブレットの活用の幅が広がった。	○
課題	地域で子どもを育てていくことが、ふるさと教育にもつながる。地域人材を確保し、活用しながら、多くの体験活動を実施していく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

⑥多様なニーズを要する子どもに対応した教育機会の充実

取組目標	特別な支援を必要とする子どもたちを含め、すべての子どもがともに十分な教育を受けられるように多様で柔軟な仕組みを整備する。また、子どもたちが安心して教育を受けられる魅力ある学校づくりを推進するとともに、不登校の子どもに対する多様で適切な教育機会の確保に取り組む。	
年度計画	市の教育支援委員会において、こども園、小中学校、高校と連携しながらサポートブックをもとに児童生徒の特性を把握し、一人一人に合った教育環境を提供できるように取り組む。	内部評価
実績成果	高須フレンドリールームを有効に活用し、児童生徒の居場所となるよう個に応じた活動を行い、学校と連携を密にすることができた。学校だけでなく関係機関も含めて情報を共有しながら支援にあたることができた。	○
課題	高須フレンドリールームに加え、新たに、もう1教室新設し、児童生徒の居場所づくりの取組をさらに充実していくWi-Fi環境を整備しタブレットを基にした学習ができたり、児童書に囲まれ安心して活動できたりする学習空間を創り上げていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

⑦外国語活動の充実

取組目標	A L T（外国語指導助手）や小学校外国語活動インストラクターを配置して、外国語科や外国語活動の授業における子どものコミュニケーション能力（身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合う力）の向上に努める。	
年度計画	全小中学校にA L T（外国語指導助手）を配置する。また、小学校5・6年生の英語科の授業には年間70時間の全時間、インストラクターを配置する。	内部評価
実績成果	中学校には毎週、小学校には隔週でA L Tを配置して、外国語でのコミュニケーション能力を高める指導を行った。担任だけでは十分な指導が難しい発音面や会話場面などを補うことができた。 令和元年度から外国語インストラクターを1名増の、5名配置し、研修を2回実施した。指導方法の交流、国立教育政策研究所調査官の講話聴講、先進校授業参観などを通して研修ができた。	○
課題	小学校3年生以上の外国語・外国語活動にインストラクターを配置し、さらに授業の充実を図る必要がある。小学校では、担任が中心となって自信をもって授業をすすめることができるよう必要に応じて支援をする必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



生徒総会をオンラインで開催している様子



中学校でのALTを活用した授業の様子

⑧キャリア教育の推進

取組目標	受入事業所となる企業の協力により、子どもたちの望ましい勤労観・職業観や人生観を育てる体験を支援することで、職場体験学習の充実を図る。	
年度計画	中学校2年生時に1週間の職場体験、またはそれに代わる職業体験講座等を全中学校で実施できるように支援する。	内部評価
実績成果	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、事業所での体験活動は中止とした。代わりに、各学校に事業所から講師を招き「職場体験講座」を実施した。講座での体験を通して、生徒たちは、働くことの意義や価値を学ぶことができた。	○
課題	生徒が目的をもち、意欲的に体験に臨めるような事前、事後の指導の充実を図ることが課題である。5日間の職場体験を実施しているのは県下でも海津市だけである。今後も継続できるよう価値のある活動にするために、受入事業所と連携していく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

⑨郷土学習の推進

取組目標	ふるさと海津の歴史や自然に触れ、地域について学ぶことを通して郷土愛を育むための地域教材として「海津市郷土学習の手引き」の活用を目指す。	
年度計画	「海津市郷土学習の手引き」や地域資源・地域人材を活用した授業を推進する。	内部評価
実績成果	「海津市郷土学習の手引き小学校1年生～4年生版（身の回りの自然を調べよう）」は、小学校低学年の生活科や中学年の理科で多くの学校で活用できた。	○
課題	小学校5年生～中学校3年生版「海津の動物と植物」についての活用方法について、検討していく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



職業講座体験の様子(平田中学校)



歴史民俗資料館の堀田体験の様子
(高須小学校)

施策の総合点検評価

担当課

教育総務課 ・ 学校教育課

基本目標	2 学校教育の充実	外部 検証 評価 継続・妥当
施策	4 教育環境の整備・充実	
施策方針	子どもたちの安全・安心を確保し、超スマート社会（Society5.0）の実現に向け質の高い教育を支える教育環境の整備・充実を図ります。	評価段階 拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	教育施設では、長寿命化計画に基づき、海津町地域の小学校統合の状況を踏まえ、効率的・効果的な教育環境の整備に取り組んだ。また、国のGIGAスクール構想の実現に向けて、令和2年度に1人1台端末及び高速大容量通信ネットワーク整備を小中学校において完了した。今後は、これらを活用し多様な学びが展開されていくように、ICT環境の整備・充実を図っていく。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 基本施策に関する評価シート(★は令和3年度の重点的な取り組み)

①学校施設の老朽化対策及び長寿命化対策の推進

取組目標	各施設の劣化状況を把握するため、建築基準法に基づく点検を実施する。そして、今後の児童生徒数の推移を勘案しつつ長寿命化計画を策定し計画的な施設整備を推進する。また、学校施設の非構造部材の耐震化を着実に進め、必要に応じた洋式トイレウォシュレット化の充実を図る。	
★年度計画	老朽化による施設修繕を施し、安全で快適な学校施設として維持する。	内部評価
★実績成果	適切な維持管理を行うことで、子どもたちに安全で快適な学習環境を提供することができた。また、平田中学校外壁等修繕工事、石津・城山小学校昇降機改修工事を行うなど、老朽化に対応する工事も予定どおり実施することができた。	○
課題	学校施設の老朽化が進み、修繕費や維持管理の負担が増してきている。このため、老朽化対策及び改修工事の優先順位を設定し、予防保全的な改修を計画的に実施していく必要がある。改修工事を実施するにあたり、財政負担が課題となるため、国庫補助事業を有効活用し、財源の確保に努めていく。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



平田中南舎外壁改修工事完了

②教育環境における情報機器設備の充実

取組目標	子どもたちの発達に段階に応じた情報活用能力の育成に努める。そして、電子黒板などの活用をはじめとするICT機器を活用した教育や体験活動の充実を図る。また、ICT機器やデジタル教材の活用に向けた教職員の研究体制や指導体制の充実を図る。	
年度計画	GIGAスクール構想に伴う情報環境と端末機器の高い品質を維持し、一人一台端末を利用して子どもたちの情報活用能力を育成する。	内部評価
実績成果	令和2年度にGIGAスクール構想のもとに全児童生徒に導入した一人一台端末を本格的に活用することができた。持ち帰り学習を行うために必要なACアダプターや保護バックの購入、ICT機器を積極的に活用するためのICT支援事業の実施、児童生徒の理解度に応じた学習を提供できるAIドリルの導入等、ICT環境を積極的に活用し子どもたちの情報活用能力の育成、教職員の研究体制、指導体制の充実につながった。	◎
課題	全児童生徒に貸与した学習者用端末や電子黒板、その他のICT機器を、より効果的に活用するため、教職員への研修やサポートが引き続き必要である。また、パソコン室のサポートが切れるパソコンについてどのように管理していくのか検討が必要である。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③安全な通学路の確保

取組目標	交通事故の抑止や登下校防犯の推進を図るとともに、児童生徒の安全で安心な通学路の確保に向けた環境整備を関係機関と協力しながら推進する。	
年度計画	児童生徒の安全で安心な通学路の確保のため、道路管理者、警察署及び教育機関等で構成する「海津市通学路安全推進会議」を開催し対策を実施する。小学校統合に関する通学路についても調査・検討を実施する。また、養老鉄道と連携し「かいづち養老鉄道応援パスポート事業」を実施する。	内部評価
実績成果	市内の通学路について、児童生徒がより安心して登下校が行えるよう、通学路の安全対策を推進するため、2回の会議を開催し、通学路危険箇所の対策内容を市のホームページで公表した。小学校統合により、通学区域が拡大されることから、子どもたちが登下校する通学路を調査・検討を行った。また、養老鉄道と連携し「かいづち養老鉄道応援パスポート事業」を実施した。	○
課題	小学校統合により、通学路の変更や交通状況等により、危険箇所の発生などが考えられることから、学校をはじめ関係機関による点検を継続的に実施し、通学路の安全対策を行う必要がある。また、対策箇所も多くあることから、効率的・効果的な安全対策が課題である。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



タブレットを活用して班学習している様子



通学路安全推進会議

施策の総合点検評価

担当課

学校教育課

基本目標	2 学校教育の充実	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	5 豊かな心の育成		
施策方針	心のふれあいを大切にしたい温かい人間関係を通して、子どもたちの豊かな心を育みます。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	道徳教育や人権同和教育が各学校で確実に実践されている。また、体験的な活動を取り入れたり、日常生活の中で、多様な見方・考え方を認めながら他者を尊重したりすることを繰り返し指導している。学校の特色に合わせた体験活動や交流活動も積極的に行うことができた。今後は、地域の人材を有効に活用しながら、地域も巻き込んで豊かな心を育てる活動を継続していく。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 基本施策に関する評価シート(★は令和3年度の重点的な取り組み)

①道徳教育の充実

取組目標	人としてより良く生きる力を育むため、その基盤となる道徳的心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う道徳教育を「特別の教科 道徳」をはじめ教育活動全体を通して推進する。そのためにも、保護者や地域との連携を深め、子どもの道徳性を地域社会全体で高める道徳教育を実施する。	
年度計画	「特別の教科 道徳」の授業の充実を図る。より良く生きる力を育むために考え議論する道徳の授業を実践する。	内部評価
実績成果	道徳的価値の理解を自分とのかかわりで考えるとともに、多様な感じ方や考え方に接して、物事を多面的・多角的に考えるなど、主体的に自己の生き方についての考えを深めることができる道徳授業を目指す取り組みを行った。城南中校区の学校で授業公開を行い、よりよい授業にしていくための研究会を行った。	○
課題	道徳的な価値の理解を実感するために、多様な考え方、感じ方を出し合うことが重要である。そのため、「考える道徳」「議論する道徳」を目指し指導を更に工夫する必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



仲間と共に学び合おうとする授業の様子



ICT機器を活用した道徳の授業の様子

②多様な体験活動の推進

取組目標	各学校の実態に応じ、各教科や総合的な学習の時間、特別活動など教育活動全体を通じて、自然体験、社会体験、ボランティア体験、異学年や高齢者との交流活動などの体験的・実践的活動を推進し、子どもの豊かな感性や情操を育む。	
年度計画	各学校の実態に応じて、体験的学習を充実させる。	内部評価
実績成果	小学校では野菜の収穫などの農業体験、園児や地域の方との交流活動が行われた。中学校では、「地域の人々から学ぶ」体験など、それぞれの学校の実態に応じて、体験的学習を推進することができた。	○
課題	新型コロナウイルス感染症拡大の状況に合わせて、臨機応変に交流体験の内容を見直す必要がある。教科の学習内容や授業時数が増えた中で、体験活動の時間を確保していくために、カリキュラムマネジメントの視点から計画を見直していく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③人権同和教育の推進

取組目標	人権尊重と人間平等の基本理念を確立するとともに、人と人との間に存する偏見を解消する指導を行い、不合理な差別をなくし、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる教育を推進するように努める。また、家庭及び地域社会において人権意識の高揚を図る。	
年度計画	学校において「人権について考える集会」等を実施する。また、人権の取り組みに対する報告集を作成する。	内部評価
★ 実績成果	各学校で「ひびきあい活動」に取り組み、思いやりの心を持ち、人を大切にすることを推進した。この取組については、全校で交流する機会を設け、人権について考える「ひびきあいの日」を全学校で実施した。各校で取り組んだ取組は、一冊の報告集としてまとめ、各校・園に配付、海津市内の学校で共有することができた。	○
課題	多様化する社会の中で、LGBTQの問題やインターネットによる人権侵害など、今日的な人権課題についても取り組んでいく必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



高齢者疑似体験をしている様子



ひびきあい集会で
学級の取組を発表する様子

施策の総合点検評価

担当課	学校教育課
-----	-------

基本目標	2 学校教育の充実	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	6 教職員の資質の向上		
施策方針	個々の教職員の力量と組織での対応力の向上を図ります。	評価 段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分	評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S 予定以上に進んでいる	A	教職員の資質向上を図るために、校内、校外でさまざまな研修を行うことができた。特に、研究所主催研修では、キャリアステージに応じた研修のほか、教科指導や生徒指導、郷土学習など、学校での指導に生かせる内容を工夫して行った。今後は勤務の適正化との両立を図りながら、ニーズにあった研修を企画し、効率よく実施していく必要がある。
A 予定どおり進んでいる		
B 少し遅れている		
C 大幅に遅れている		

2. 基本施策に関する評価シート(★は令和3年度の重点的な取り組み)

①「海津市教育のスタンダード」の活用

取組目標	だれもが実践でき、だれにも力をつけることができる指導理念である「海津市教育のスタンダード」の理解と実践を図る。また、学級経営力、授業力を高めるために、小中学校教員が互いの教育課程や指導内容のつながりを把握し、義務教育9年間で児童生徒を育てる。	
年度計画	授業における各校のスタンダードを作成し、スタンダードをもとにした授業を実践する。	内部評価
実績成果	各校で授業のスタンダードが作成され、全ての学級、全ての担任が共通して実践することを明らかにし、学校としての統一感のある授業づくりが行われた。教科研究会では、理科、音楽、技家、図工・美術、外国語、特別支援の部会で小中合同で研究会を行い、義務教育9年間のつながりの把握に努めることができた。	○
課題	どの学校でも若手教員の占める割合が増えてきているため、各学校の教務主任や研究推進委員長を中心に、一層スタンダードを工夫・活用して、教員の指導力をさらに高めしていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

②教職員研修の充実

取組目標	「海津市教育研究所」を核として、教職員の経験や時代の変化に応じた研修の充実を図る。また、教員としての専門性や今日的な教育課題への対応力を高めるため、大学などの関係機関との連携を強化する。	
年度計画	授業で子どもたちにタブレット端末を使用させるために教員に求められるICT活用力の向上を図る。また、教職員の指導力の向上のため、学校や教員のニーズに応じた研修(オンデマンド研修)の充実を目指す。	内部評価
★ 実績成果	研究所主催で「中堅幹部研修」「若手人材養成研修」「バディ研修(2年目研修)」などキャリアステージに応じた研修、市内全教職員を対象として希望制の夏期講座(3講座)を企画運営した。また、各学校からの要望に応じ、教職員の指導力を向上させるためのオンデマンド研修も行った。(研修講座 全65回)	○
課題	デジタル教科書の活用やプログラミング学習など、ICT教育に関わる研修を充実させていく必要がある。今後も、より学校現場のニーズに応えた研修内容を考えていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③特別支援教育に関わる教職員の研修

取組目標	特別支援コーディネーターなどを中心として、園・学校の全職員が計画的な研修を行う事を通して、特別支援教育に対する理解を深めるとともに、就学前から園や特別支援学校との連携も図りつつ、組織的な動きを支援する。	
年度計画	教育支援委員会を開催し、情報交流を図る。 園・学校ごとに計画的な研修を行い、実践内容を報告する。	内部評価
実績成果	7月と10月に教育支援委員会を開催し、適正な就学指導について情報交流を行った。また、年間を通して、各園・学校で特別支援教育についての研修を計画的に行い、全職員が特別支援教育についての理解を深めることができた。	○
課題	研修によって理解を深めたが、それを実際に一人一人の子どもに合わせて適切な支援を行えるよう、確実な実践力につなげていく必要がある。また、各種研修会に参加して学んだことを、参加者が積極的に学校へ伝えていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

④研究授業や公開授業、交流授業などの促進

取組目標	市内小中学校での公開授業の参加や、就学前と小学校、小学校と中学校との交流授業を促進することや、中一高との連携を図るなど、教育の資質向上に努める。	
年度計画	毎月の研究授業の一覧を作成し、それを活用した授業交流を促進する。 小学校とこども園の交流を充実させる。	内部評価
実績成果	各学校で計画されている研究授業について、教育研究所で集約して一覧にまとめて各校に配付し、他校の研究授業にも積極的に参加するように働きかけた。園・小連携協議会を2回実施し、意見交流を行うことによって、小学校とこども園の交流活動を充実させることができた。	○
課題	各校の授業研究が積極的に行われるよう、今後も働きかけを継続することが必要です。他校との研究授業に参加したい思いはあっても、その間の授業の補充に十分対応できないために参加できないことがあった。学校間の授業交流を促進するためには、補充に対応できるような人的配慮等も必要である。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

⑤子どもと向き合う時間の確保

取組目標	教職員の事務負担の軽減は、教職員が授業や授業準備などに集中し、子どもと向き合う時間を確保するとともに、心身の健康を損なうことがないように、教職員の勤務時間及び内容に関する実態改善に向けた総合的・計画的な取組みを推進する。	
年度計画	休日を含めた時間外勤務時間を正確に把握する。 時間外勤務時間80時間以上の職員の心身の健康状態を確認し、働き方改革を進める。	内部評価
実績成果	全職員の時間外勤務について正確に把握するために、全小中学校勤怠管理システムで把握している。1カ月時間外勤務45時間以内を目指し、各校で工夫した取り組みを行うことができた。時間外勤務時間が80時間を超える職員については、校長が面談を行い、心身の健康状態を確認するとともに、適正な働き方について指導を行った。	○
課題	働き方改革の意識は確実に浸透しつつある。しかしながらまだ、月80時間を超える時間外勤務をしている職員がいる。さらに勤務の適正化を図るために、ICT機器の活用による教材準備の効率化等を進めていきたいと考えている。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

施策の総合点検評価

担当課

教育総務課（給食センター）

基本目標	2 学校教育の充実	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	7 学校給食の充実及び食育の推進		
施策方針	子どもたちが自ら健やかな体をつくることに関心を持ち、積極的に健康や食生活にかかわる態度を育成します。また、学校給食の公会計事務化の実施や故障などによる緊急時の対応策を図ります。	評価 段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	令和3年度においても、新型コロナウイルス感染症対応による学級・学年・学校の閉鎖に対し柔軟に対応した。今後も衛生管理を徹底し、安全・安心な給食を提供するとともに、学校、地域、家庭とつながり、給食内容を充実させ、食育推進を図っていく。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 基本施策に関する評価シート(★は令和3年度の重点的な取り組み)

①地域全体で取組む食育の推進

取組目標	学校年間指導計画に基づき、学校・園、家庭、地域が連携して、次代を担う子どもの望ましい食習慣の形成に努める。また、学校における食育を推進するために、学校給食の教育的意義を見直すとともに、学校の教育活動全体で食に関する指導の充実を図る。	内部評価
年度計画	学校教育活動全体で食育推進を図り、子どもたちの望ましい食習慣の形成に努める。また、学校・地域と連携協働し、地域産物の給食への使用拡充を図る。	
★実績成果	コロナ禍に伴い、子どもたちと生産者の方とをつなぐ交流の場がなくなった。それに代わる対応として、食に関する資料（生産に関わる苦労や工夫など）や野菜の実物を給食の時間に見せて説明することで、郷土愛や地元への関心を高めることができた。また、地元生産者からの野菜の無償提供についても、小中学校に情報提供を行うとともに、生産者も学校給食の取組に理解を深めることで生産への意欲につなげてもらうことができた。	○
課題	給食センターが、小中学生の食育推進の拠点となり、市全体の食育推進に取組む必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



海津市学校給食センター(平田町今尾地内)

②学校給食の充実

取組目標	郷土料理や外国料理だけでなく、時代の要請に即した献立を取り入れ、栄養バランスの取れた魅力ある学校給食の提供を目指す。また、地場産物の活用を図り食育の生きた教材となる学校給食の充実を図る。	
★年度計画	日本の和食文化継承のため、児童生徒の嗜好も考慮しつつ、和食給食を中心とし、学校給食の充実を図る。	内部評価
実績成果	海津市産物（加工食品含む）については、献立に積極的に取り入れるとともに、毎月の献立表に海津市産食材を使った献立レシピを掲載したり、海津市産食材を使用した給食レシピ集を配布するなど、子どもたちや保護者にもその食材が定着し、家庭でも手軽に使ってもらえるよう試みができた。 また、献立には、和食を中心としたメニューを取り入れ、給食の時間に子どもたちが読み上げる放送資料において、和食についての説明をするなど、子どもたちが日本の伝統食である和食にもっと関心をもつことで、「和食の伝承」につなげることができた。	○
課題	子どもたちが、海津市の産物について興味・関心を持ち、郷土愛を持続してもつことができるよう、関係機関との連携協働を図る必要がある。また、和食の煮物や魚料理を苦手とする子どもが多く残量にもつながっていることから、継続して指導を行う必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③学校給食の衛生管理と事故防止の徹底

取組目標	衛生管理や事故防止の徹底を図るため、給食施設や調理機器の適正な管理にあたるとともに、さらに給食調理員や学校給食職員の徹底した衛生管理のうえで安全で安心な給食を提供する。	
年度計画	給食施設や調理機器の適正な管理にあたるとともに、衛生管理マニュアルに基づき、給食調理員や学校給食職員等に衛生管理を徹底し、安全で安心な給食を提供する。	内部評価
実績成果	「学校給食衛生管理基準」に基づき、策定した「海津市学校給食センター衛生管理マニュアル」により、常に意識し、問題箇所を確認し、改善を行うことができた。給食調理員の衛生管理の意識の向上につなげることができた。	○
課題	委託業者を含めた全職員が「海津市学校給食センター衛生管理マニュアル」を遵守し、衛生管理や事故防止の徹底を図る必要がある。 食品への異物混入を防止するため、納入業者・製造業者へ指導強化に努める必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

④学校給食センターの効率的な運用・整備

取組目標	学校給食の質の維持を図りながら、より効果的な給食調理業務・配送業務の運用を実施するために民間委託化を継続する。また、安全で安心な学校給食の提供に努めているものの、機械の稼働保証期間経過後の故障や経年劣化による施設修理費の増加が見込まれる中、さらに運用費の抑制に努める。	
★年度計画	学校給食の質の維持を図りながら、より効果的な給食調理業務・配送業務の運用を実施するために民間委託化を継続する。また、安全で安心な学校給食の提供に努めているものの、機械の故障などによる施設修理費の増加が見込まれる中、光熱水費などの削減に努め、運用費の抑制に努める。	内部評価
実績成果	調理・配送等を行う委託業者には、光熱水費が高騰してきていることから、これまで以上に電気・ガス・水道水の適切な使用とその削減に努めてもらい、給食設備の故障・不具合等が発生した際には、早期対応をすることができた。 また、計画的に更新が必要となってきた設備機器について、更新計画を作成し工事発注を行った。	○
課題	給食設備・調理機械において、耐用年数の10年を超えて使用しており、老朽化による不具合等も生じてきていることから、更新計画を作成し計画的な更新が必要となる。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

⑤学校における事務負担の軽減

取組目標	教職員の働き方改革として、教職員の事務負担の軽減に向けた、業務の役割分担・適正化を進めるため給食費の公会計事務化の調査・研究を進める。	
年度計画	教職員の事務負担の軽減に向けた業務の適正化を進めるため、給食費の公会計事務化の準備を進める。	内部評価
実績成果	月毎に給食費を計算し、各学校・各園に納付書を発行し、徴収することができた。なお、徴収事務の公会計化に関しては、他市町の状況把握を行った。	△
課題	公会計化導入には、人員の確保とシステム導入に係る財源の確保が必要となる。なお、導入した他市町村の状況は、滞納者の増加が散見される。また、給食費の無償化については、県下及び西濃圏域の自治体の状況を鑑み、無償化の実施（対象者及び実施時期）を見極める必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

⑥給食の提供における緊急対応

取組目標	給食設備や調理機械などの故障による迅速な復旧体制や、故障時における学校給食の提供にむけた緊急時の対応策について調査・研究を進める。	
年度計画	給食設備や調理機械などの点検結果に基づき、早急に対処する。また、故障が発生した場合、迅速な復旧体制がとれるよう委託業者と連携し、欠食の回避に努める。	内部評価
実績成果	設備・調理機械等において、給食提供を停止するような大きな故障は無く、予定どおり提供できた。なお、委託業者とは、機械の故障・不具合等が発生した際の早期の連絡や、9月上旬には、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、学校の休校連絡などにおいて連携を取ることができた。	○
課題	給食が提供できない場合は、備蓄の代替品（R元年度購入した救急カレー）などでの対応となるが、備蓄量に限りがあり、日数がかかる場合には弁当持参も考慮する必要がある。また、給食設備・調理機械の保守点検等により、状況把握をする必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



農事組合法人平原営農より「キャベツ」を無償提供



無償提供いただいたキャベツを使用した給食

施策の総合点検評価

担当課	教育総務課
-----	-------

基本目標	2 学校教育の充実	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	8 児童・生徒の減少に伴う課題の検討		
施策方針	今後、少子化が進むことが予想される中、義務教育の機会均等や教育水準の維持・向上の観点を踏まえ、学校規模の適正化や学校の小規模化に伴う諸問題への対応について継続的に検討していきます。	評価 段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	令和3年4月28日に策定した「海津町地域小学校統合基本計画」に基づき、海津町地域の5つの小学校を令和6年4月1日に統合し新たに、現高須小学校の位置に開校予定とした。開校に向け、地域住民、保護者などで構成する「海津町地域小学校統合準備委員会（以下、「統合準備委員会」という。）にて協議・調整を図るとともに、施設整備を行い、受け入れる体制を整える。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 基本施策に関する評価シート(★は令和3回年度の重点的な取り組み)

①「海津市小中学校の適正規模等に関する検討委員会」の設置と協議

取組目標	児童生徒の減少が進む中で、学習環境の充実、指導の充実、教育水準の維持向上を図る観点から学校規模の適正化や学校の小規模化に伴う諸問題への対応について継続的に協議する。	
★年度計画	海津地域の5校が「望ましい学校規模」へと学校統合を図るべく、統合準備委員会にて保護者、地域と学校間が連携し調整・協議を行う。	内部評価
	実績成果	◎
課題	海津町地域小学校統合基本計画で、「統合の実施時期を令和6年4月1日」としているため、社会情勢等先行きが見通せない状況下であっても計画的に遅滞なく全ての事案を進める必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

基本目標 3

生涯学習環境の整備・充実
(社会教育課)

施策の総合点検評価

担当課

社会教育課

基本目標	3 生涯学習環境の整備・充実	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	9 継続的な学習・交流の場の形成		
施策方針	生涯にわたって、「いつでも」「どこでも」「だれでも」「何からでも」主体的に幅広い生涯学習の機会を享受できる学習環境の整備を図り、一人一人の「生きがいづくり」や「地域を支える人づくり」など心豊かな生活を送ることができるように学習環境の充実に努めます。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	生涯学習講座については、在宅やオンラインでの開催方法を取り入れたことで参加し易くなり、参加者を増やすことができた。 専門の技術や知識をもつ市民が講師となり、教える生きがい・学ぶ生きがいとなる生涯学習講座「市民カレッジ」の企画準備ができた。市民主導型の生涯学習講座を展開するにあたり、市民講師の供給と受講ニーズの一致を図る必要がある。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R3)	目標値 (R3)
生涯学習講座 受講者数	1,311人	2,832人	1,800人

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和3年度の重点的な取り組み)

①生涯学習ニーズの把握

取組目標	市民の生涯学習ニーズを的確に把握して、講座の開設や既存講座の見直しなどを行い、目的に応じた学習内容の充実を図る。	
★年度計画	社会教育活動について、自ら主体的に学びやりがいを持って活動できるように、参加者の意見を尊重した講座を行う。また、自分自身や生活を充実させ活力ある地域や社会をつくるなど、自己に適した手段・方法を選んで、生涯を通じて行える活動を目指す。	内部評価
★実績成果	新型コロナウイルス感染症対策のため、高齢者学級は中止としたが、生涯学習講座は、人数を制限して開設し、家庭教育学級は、在宅型の講座にしたことにより、受講者を増やすことができた。	○
課題	受講ニーズを把握し、専門の技術や知識をもつ市民が講師となり、教える生きがい・学ぶ生きがいとなる生涯学習講座「市民カレッジ」を広く周知し、生涯学習講座の充実を図っていくことが重要と思われる。市民主導型の生涯学習講座を展開するにあたり、市民講師の供給と受講ニーズの一致を図る必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



②学習情報の収集・整備

取組目標	各種講座や教室など、市民が学習の機会に関する情報を得る手段としては、市の広報紙やインターネット、口コミなどが考えられる。また、最新の情報を提供するために学習情報を収集し、メディアなどを活用して、連携が図れるように努める。	
年度計画	市報、チラシの既存周知方法だけでなく、メール配信やケーブルTV等メディアを通じて情報発信し、開催の告知を図る。	内部評価
実績成果	各社会教育施設において市内全体のクラブ・サークル等の団体情報を共有し、「海津市生涯学習のご案内」冊子に掲載するとともに、市のHPにも掲載し広く周知することができた。新聞や市報に取り上げてもらい、講座の様子等を市民に広める機会を増やすことができた。	○
課題	各種講座の内容に合わせた、より効果的な告知方法を検討する必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③社会教育施設などの整備とネットワーク化

取組目標	公民館や図書館などの社会教育施設が、地域コミュニティ形成の拠点としての役割を果たし、だれもが気軽に立ち寄り、情報交換や交流ができる場所となるように改修などを計画的に進める。また、学習機会の確保や公平性を考慮しながら、施設の統廃合やネットワーク化の検討を進める。	
年度計画	クラブ・サークル等主体的に活動されている団体の活動情報等を提供する。また老朽化施設の統廃合の検討を順次行う。	内部評価
実績成果	社会教育施設の管理については、限られた予算であったが適切に管理することができた。海津市OCT文化センターについては、ワクチン接種会場になったが、利用日程を調整し、文化展や二十歳の集いなどのイベントを開催することができた。 令和4年1月にデジタル図書館を開設し、図書貸し出しの利便性向上につなげることができた。	○
課題	社会教育施設の整備は、補修や改修が必要な設備が多数あり、多額の費用を要するため、実態を調査し、計画を検討していく必要がある。 市内の社会教育施設の存続について、文化会館の老朽化が著しいため、廃止の方向で検討しているが、城山支所や現在の利用団体等への代替案等、多くの問題や検討事項がある。 デジタル図書館については、利用登録者数が増えるように周知していく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



海津市生涯学習講座(令和3年度版)

施策の総合点検評価

担当課

社会教育課

基本目標	3 生涯学習環境の整備・充実	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	10 多様な学習機会の提供		
施策方針	生きがいをもち、文化的で心豊かな生活を送ることができるように、地域の中での学習活動を通して共生を目指します。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、図書館の利用時間を制限していたため、利用者数が減となったが、市民からの要望をもとに図書購入ができた。また時間や場所の制約を受けない読書ができるよう電子書籍サービスを開始した。また読書により、心豊かな社会を実現するため「読書のまち宣言」制定し、今後さらに図書館の利便性向上や利用者増加につながるよう運営する。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R3)	目標値 (R3)
市立図書館貸出数	265,257冊	172,866冊	275,000冊

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和3年度の重点的な取り組み)

①生涯学習活動と指導者の育成

取組目標	市民一人一人が生涯学習を通じて、多様な学習活動ができるように、講座の充実や芸術・文化に触れる機会の提供、指導者の発掘・育成に努める。	内部評価
年度計画	講座の企画時に体験を重視した講座の開設に努め、生涯学習講座やクラブ・サークル団体一覧を冊子に掲載し、活動内容を周知する。	
実績成果	各種講座の中には、毎年体験を重視した講座を開催しており、講師や受講生にとって充実した講座になっている。 生涯学習案内の冊子を2,000部作成し、周知を行った。作成部数はR2年度より減少したものの、受講者数は増加した。	
課題	ボランティア講師の登録をさらに進め、登録された講師を活用していくため、多くの講座を開設する必要がある。 今後さらに多くの市民が受講できるよう、体験重視の講座を多く開設し、冊子のほかHP等で周知する必要がある。	



②生涯学習の意識啓発

取組目標	生涯学習に対する市民意識の向上を図り、啓発に努めるとともに、ニーズに応じた幅広い生涯学習の場を増やす。	
★ 年度計画	講座案内冊子を各施設に配布し生涯学習の啓発を推進する。 講座やイベント終了後にアンケートを行い、市民のニーズの把握をし講座の企画に反映させる。	内部評価
★ 実績成果	各社会教育施設において、講師と内容等について相談しながら、受講生の希望に沿う講座を開くことができた。 講座については、参加者はほぼ概ね満足という結果であった。	○
課題	多様な生涯学習講座の計画を試み、市報やHPで周知して多くの市民に参加してもらえるように啓発していく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③図書館や歴史民俗資料館などの学習機関の機能充実

取組目標	多様で高度化する学習ニーズに応えるため、図書館などの学習機関を一層充実させ、利用者へのサービス向上と専門性の高い学習機会の提供に努める。	
★ 年度計画	図書館蔵書の充実に努め、利用者の学習ニーズを考慮した施設運営を進めていく。また、市民の学習機会の充実のため歴史講演会等を開催する。	内部評価
★ 実績成果	新型コロナウイルス感染防止により、図書館への来館者は例年に比べて少ない状況にあるが、デジタル図書館を導入したことで、スマートフォンやタブレットなどで書籍を読むことができ、図書館の利便性の向上につなげることができた。 歴史民俗資料館では、Wi-Fi環境を整備し、学習環境の利便性の向上につなげることができた。	○
課題	図書館では、「読書のまち宣言」を実現するため、魅力ある図書館づくりや利便性の向上に取り組んでいくことが必要である。 資料館では、新たな展示方法や情報機器の活用などのため、リニューアル事業を推進していく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



海津図書館



海津図書館

施策の総合点検評価

担当課

社会教育課

基本目標	3 生涯学習環境の整備・充実	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	11 新たな学習活動への支援		
施策方針	地域性や地域文化を大切にしながら、生きがいづくり・地域づくりにつながるまちづくりを目指し、市民力を活かした多様な学習活動の支援に努めます。また、地域の人々が互いに助け合える魅力溢れる生涯学習の推進を図ります。	評価 段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	ボランティア講師登録者の活用として、市民カレッジを提案することができた。中学生の部活動自由化ということもあり、小学校高学年～中学生向けにキッズカレッジの提案も行うことができた。今後は市民提供による講座の実施を増やしていけるように地域の指導者の確保や環境づくりに取り組む。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R3)	目標値 (R3)
—	—	—	—

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和3年度の重点的な取り組み)

①学習活動を支援する人材の活用

取組 目標	地域の活動やボランティア活動を通じて、退職者や学習習得者がこれまで培ってきた技術やノウハウを市民に還元できるように環境づくりと人材の確保に努める。	
年度 計画	市HPや講座の開催の際にボランティア講師制度を周知し新規の講師登録を推進する。	内部評価
実績 成果	ボランティア講師の登録者に、「市民カレッジ」「キッズカレッジ」を新たな講座として提案し、開講の準備をすることができた。	○
課題	受講ニーズのあるボランティア講師の確保に努め、市民カレッジの講座数を増やして多様なニーズに応えられるようにしていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



②高齢者のもつ技能の伝承

取組目標	地域の言い伝えや風習などの伝承を通して、子どもと高齢者が触れ合う機会を提供し、多世代にわたる市民交流を推進する。	
年度計画	地域で活動されている高齢者や団体の方を講師として講座を開催し、子どもとの触れ合う機会を提供する。	内部評価
実績成果	竹炭工作教室や恵方巻づくりは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となったが、年間を通して行う将棋教室は十分な対策を講じて実施し、指導者も子ども達も楽しく参加することができた。	○
課題	ニーズのある講座の実施をより多く行えるように、多様な講師の把握と、工夫改善して受講者を増やしていけるような助言等を行う必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③学習機会の充実

取組目標	市民の学習ニーズに対応した学習機会を広く提供するとともに、市民協働や関係する係との連携・協力による学びの場を充実させる。	
★年度計画	「生涯学習講座のご案内」冊子において掲載方法を工夫することで市政に関する出前講座を広く周知し、市民協働のまちづくり事業として市の部局(市民活動推進課)と連携を深め学習機会の充実に努める。	内部評価
実績成果	「生涯学習のご案内」について、より見やすい冊子を目指し、全体の構成やレイアウトの見直しを行った。	○
課題	「生涯学習のご案内」を全戸配布から、施設設置のみへと変更したため、社会教育課で企画する集まり等でも受付に設置するなど、積極的な働きかけをする必要がある。講座の参加者募集については、適宜市報への掲載も併用し、広く周知する必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



子ども将棋教室

基本目標 4

青少年の健全育成

- 地域交流の推進
(社会教育課)

施策の総合点検評価

担当課

社会教育課

基本目標	4 青少年の健全育成・地域交流の推進	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	12 地域で進める青少年の健全育成		
施策方針	世代・地域・心のつながりを強化し、地域ぐるみで良好な環境づくりを進め、青少年の健全育成を図ります。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	青少年の健全育成を図る関係諸機関と適宜会を持つことで、意見交流を行いながら、協力して進めることができた。コロナ禍の中で、世代・地域・心のつながりが希薄となっているので、そのつながりを強化するためにコロナ禍においても取り組める内容や企画の運営方法等を考えていく必要がある。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R3)	目標値 (R3)
成人の集い 参加率	78.7%	R2:72.1% R3:80.1%	85.0%

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和3年度の重点的な取り組み)

①「こども健全育成指針」の推進

取組目標	海津市青少年問題協議会において策定している「海津市こども健全育成指針」を市民に周知し、市民参加で推進する。	
年度計画	海津市青少年育成市民大会での活動発表等で周知を図り、啓発に努める。	内部評価
実績成果	海津市青少年育成市民大会は、新型コロナウイルス感染対策のため、規模を縮小して実施したため、活動発表は行わなかった。海津市青少年問題協議会内において、海津市の子ども達の現状について周知することができた。	△
課題	今の子ども達の現状の把握と対策について、青少年育成団体が共通理解を図り、それぞれの立場において何ができるのかを考え、その上で連携を図っていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

②子どもの生活習慣の確立に向けた支援

取組目標	子どもの基本的な生活習慣の確立や生活リズム向上につながる活動を支援する。その中でも情報モラル教育の一環として、『あったかい絆宣言』を周知し、学校やスクールサミットなどを通して情報機器を適切に利用できるように取り組む。	
年度計画	児童生徒ができる取組をスクールサミットで考え、児童生徒が主体となって生活リズム向上につながる活動を実践していく。また、小中学校において情報モラルワークショップを行い、児童生徒や保護者に啓発していく。	内部評価
★ 実績成果	スクールサミットを開催し、「あったかい絆宣言」の海津市の現状や問題点をどのようにしていくとよいか話し合う中で、各学校で取り組めるとよいことを決めることができた。城南中学校で情報モラルワークショップを行い、情報機器の良さや問題点を考えることを通して、使い方について約束を決めることができた。	○

課題	情報機器に関するトラブルが低年齢化している中で、情報モラル教育において、子どもだけでなく保護者への啓発をどのようにして行っていくのかが問題である。「使わせない」ではなく「どのようにして使うか」ということを中心に啓発して行く必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
----	---	--

③組織的な活動の充実

取組目標	地域のスクールボランティアやこども110番の家などによる見守り活動や広報啓発などを行い、環境浄化活動の充実を図る。また、家庭・学校・地域社会・警察・各種団体との連携を図り、協力体制を強化していく。さらに安全・安心な地域ネットワークを築き、地域の見守り力を高めていく。	
年度計画	青少年育成推進員会との連携や学校警察連絡協議会を通して、状況把握や環境改善を図る。	内部評価
実績成果	新型コロナウイルス感染予防のために、回数を減らして、青少年育成推進員会、学校警察連絡協議会を開催した。青少年育成推進員会との連携や学校警察連絡協議会を通して、様々な立場からの意見交流を行うことができ、状況把握と環境改善について議論することができた。	◎
課題	今後も継続して会を行い、青少年健全育成に関わる関係諸機関が、共通理解のもと連携を図れるようにしていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

④青少年教育の充実と地域社会の教育力の向上

取組目標	青少年の主体性や社会性を育むために、新成人が自ら企画する「成人の集い」を開催する。また、異年齢交流の場となっている子ども会活動においても、自主的に活動ができるように家庭・学校・地域の連携を図る。	
年度計画	コロナ禍による社会経済活動の制限がある中、成人の集い実行委員会を中心に会を企画し、新成人の運営で成人の集いを開催する。また、子ども会活動において、ジュニアリーダーを中心に子どもが楽しみながら主体的に活動できるように努める。	内部評価
★ 実績成果	「成人の集い」は新型コロナウイルス感染症拡大により、開催の延期があった。その都度実行委員会で話し合いが行われ、様々な立場を考えることや仲間を思いやること等の意見に基づいて開催することができた。 子ども会活動は、在宅での取組内容も提案して、集合型でなくても実施することができた。	○
課題	成年年齢引き下げに伴い「二十歳の集い」を実施するうえで、二十歳の節目に、家庭、地域、社会での立場を改めて認識できる会となるよう、実行委員会で協議・工夫をする必要がある。 休会、脱会する単位子ども会に対して、より魅力ある市子連の活動を広めていくとともに、再度活動の内容等について見直ししていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



スクールサミット



海津市成人の集い

施策の総合点検評価

担当課	社会教育課
-----	-------

基本目標	4 青少年の健全育成・地域交流の推進	外部 検証 評価	拡充・推進
施策	13 家庭と地域の教育力向上の推進		
施策方針	「あたりまえのことができる家庭教育支援」をテーマに基本的な生活習慣を整え、思いやりの心を大切にする家庭づくりを目指します。また、子どもが健やかに育ち、生きる力を身につけ育む場の基盤づくりのために、家庭と地域の教育力を高める支援を充実します。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	在宅での取組や、アウトリーチ型の講座の開設などを行うことで、コロナ禍の中でも、親子の絆を深めることができた。子どもが健やかに育つことができるよう、支援を継続していく。「事業の周知」「質の向上」に努めるとともに「家庭教育支援体制の充実」を、具体的方途や評価項目を設定して活動を進めていく。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R3)	目標値 (R3)
単位子ども会 会員数	4,346人	718人	1,500人
地域のおじさん・おばさん運動 登録者数	306人	306人	350人

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和3年度の重点的な取り組み)

①「あたりまえ」のことができる家庭教育支援の推進

取組目標	基本的な生活習慣を整え、思いやりの心を大切にする家庭となるよう支援する。また、市民活動団体の協力を得て、公民館事業、地域活動など親子が一緒に参加できる場を提供し、家族が触れ合い、円滑な親子関係の構築と思いやりのある家庭づくりに取り組む。	
年度計画	親と子がコミュニケーションをとりながら学べる機会を子育て応援隊講座を通じて提供する。	内部評価
実績成果	様々な分野での子育て応援隊講座を開催し、親子のコミュニケーションを行うことができた。また講座で学んだことを、家庭でも実践することができた。	○
課題	子どもや子育て世代の人がより一層参加しやすくなるように工夫改善が必要である。講座の参加者は、リピーターが多く、そこからさらに受講者を増やしていくための周知の方法を検討していく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



子育て応援隊講座(ペットボトルロケット)

②子育て学習の提供と家庭教育相談体制の充実

取組目標	多くの親が集まる機会を活かし、子育てや教育に対する家庭の役割、親としての力を高める講座の開催などを行う。また、様々な状況にある保護者のために学習機会を提供し、専門諸機関と連携した相談体制を充実させ、子育て不安の軽減を図る。	
★年度計画	文化センター内に「にこにこ子育て相談室」を設け家庭教育支援員を配置し子育てについての相談業務の強化を図る。また、次年度小学校に入学する保護者を対象とした就学時健診など集まる機会を利用して「子育て・親育ち講座」を開催する。	内部評価
実績成果	「にこにこ子育て相談室」においては、来所相談（105件）、電話・メール相談（168件）、アウトリーチによる相談（34回）があった。 「子育て・親育ち講座」は、新型コロナウイルス感染予防のため、Webでの配信とした。小学校に入学する保護者だけでなく、Webにすることで、他の保護者に向けても発信することができた。	◎
課題	多岐にわたる支援を行えるように、関係諸機関とも連携の取り方や子育て世代に対する相談体制の周知の促進を行う必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③地域と連携した活動の充実

取組目標	子どもが安心して暮らせる環境づくり、地域の活性化と教育力向上のために、学校・家庭と地域との連携をより一層深め、子どもたちの活動や学習支援などに地域住民が関わりをもてるように取り組む。	
★年度計画	各小学校区の地区社会福祉協議会にて実施されている三世代交流事業の活動支援を行う。	内部評価
実績成果	三世代交流については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により実施できたのは1地区のみであった。学習支援教室やこどもほっとハウスについては、新型コロナウイルス感染拡大のため、休止していた期間はあったが、情報のやりとりを行ったことでほぼ1年を通して活動できるように支援することができた。	○
課題	前例のやり方にとらわれずに、コロナ禍であっても多世代が交流できるような方法を検討してもらうようにアドバイスを行っていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



子育て応援隊講座(パステルカレンダー)

施策の総合点検評価

担当課

社会教育課

基本目標	4 青少年の健全育成・地域交流の推進	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	14 地域間交流・多文化共生の推進		
施策方針	市民が幅広い視野をもてるように、歴史的つながりのある姉妹都市及び友好都市と交流を深め、国際感覚豊かな人材育成のために異文化理解の教育に取り組めます。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分	評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S 予定以上に進んでいる	B	コロナウイルス感染症の影響により相互訪問は中止であったが、オンラインで交流を行うことができた。 姉妹都市である霧島市とは交流開始から50年を迎え、青少年を含めた市民レベルでの交流が図られている。友好都市である酒田市とは、小学生の交流を通して文化や歴史を学び、相互の理解を深めることができた。今後においても、交流活動への参加の機会を提供し、幅広い視野をもつ人材の育成を図る。
A 予定どおり進んでいる		
B 少し遅れている		
C 大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R3)	目標値 (R3)
霧島市生徒交流事業参加率 (応募者数/定員)	100%	94%	100%
酒田市児童交流事業参加率 (応募者数/定員)	92.0%	-	100%

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和3年度の重点的な取り組み)

①交流教育の充実

取組目標	国内における姉妹都市・友好都市との地域間交流について、市民の関心と参加を高める情報発信に努め、交流活動を通じて、相互の文化や歴史・習慣などを学び、両市の友好親善を推進する。さらに交流事業に参加しやすいような環境を整備し、幅広い視野をもつ人材育成に努める。	
★年度計画	互いの歴史・文化に対する理解を深められるような見学・活動場所を選定し、互いに親睦を深め、楽しみながら学び合う交流ができるように努める。	内部評価
★実績成果	オンラインによる開催となったが、児童生徒が他地域の児童生徒と交流できる貴重な機会となり、お互いの地域の特徴の交流だけでなく、参加者相互の繋がりをもちことができた。	○
課題	オンラインによる交流となったが、準備に時間をかけられずに受け身の交流となったため、児童生徒が主体となって取り組む交流とするなど、オンライン開催時における内容の検討を十分に行う必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

②多文化共生の推進

取組目標	多文化共生の地域づくりを推し進める必要性が増しているなか、様々な国の異なる文化や価値観の理解を深め、豊かな国際性を習得する教育に取り組む。	
年度計画	ALT (外国人講師) とコミュニケーションをとりながら、異国の文化や習慣をゲームやレクレーションを通じて多文化への理解を深める「イングリッシュ・デイ」を開催する。	内部評価
実績成果	英会話や異国食料づくりを計画していたが、コロナ禍の影響で中止とした。	△
課題	言葉を発したり、コミュニケーションを取ったり、食事をつくったりするなど、コロナ禍の中での交流が難しい。コロナ感染防止対策を講じ、安全に体験活動を行えるような企画を創造していく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

基本目標5

文化の振興
(社会教育課)

施策の総合点検評価

担当課

社会教育課

基本目標	5 文化の振興	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	15 文化の継承と発展		
施策方針	先人が残した貴重な文化遺産を後世に引き継ぐために、保存及び保護、調査研究を推進し、文化財の歴史的価値を高めるとともに、郷土の文化資源として活用することにより、地域の活性化を図ります。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	「早川家住宅」や「津屋川水系清水池ハリヨ生息地」の保存活用について、重点的に進める。また、郷土の歴史文化を守り、後世に継承していくために、文化財や伝統芸能を適切に保存、管理継承、活用、公開を行う。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R3)	目標値 (R3)
文化財保存管理件数	8件(100%)	7件 (78%)	9件(100%)

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和3年度の重点的な取り組み)

①指定文化財の保存・保護活用、後継者の育成

取組目標	所有者や管理者と協力して、その種別に応じた適切な保護管理体制を確立し、文化財の整備及び活用計画の作成を進める。また、後継者育成への支援をするなど、文化財の周知に努め、保存・保護を図る。	
★年度計画	国重要文化財「早川家住宅」における保存活用の検討及び国天然記念物「津屋川水系清水池ハリヨ生息地」の環境整備を進める。	内部評価
★実績成果	文化財保護については、国の指定文化財である早川家住宅の消防設備等工事及び津屋川水系清水池ハリヨ生息地の改修工事を行い、適切に維持管理を行うことができた。	○
課題	国重要文化財早川家住宅の価値の維持・向上を目的に保存活用計画を策定し、長期的な修理計画等を立てる必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

②文化財や伝統芸能の資料収集及び調査研究

取組目標	歴史資料などの収集、遺跡の調査・研究を行うとともに、新たな文化財の掘り起こしに努める。また郷土資料を市民への学習教材などに活用していくための基礎的情報を蓄積していく。	
★年度計画	ハリヨの個体数調査や埋蔵文化財の試掘・確認調査を引き続き実施し、基礎的情報の収集に努める。	内部評価
★実績成果	岐阜県立大垣東高等学校との共同研究によるハリヨ個体数調査を継続して実施し、ハリヨの生息状況を把握することができた(営業数が2020年34個から2021年は94個と60個多く確認された)。また、津屋川水系ハリヨ生息地改修工事を実施し、ハリヨの生息環境を整備したことにより個体数の増加が見込めた。	◎

課題	ハリヨシンポジウムを開催するなどして、市民にハリヨの保護の重要性を周知しているが、出前講座や校外学習を通して広い世代に更に周知する必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
----	---	--

③文化資源の活用

取組目標	地域資源である文化財の価値を高めることは、地域住民がふるさとに誇りをもつことにつながるため、積極的に情報公開や活用を進める。また、文化財を活用することで、観光や文化振興など地域の活性化を図る。	
年度計画	市民の身近な歴史文化を紹介する企画展や出前講座を実施し、文化財資源の活用と地域の活性化に努める。	内部評価
実績成果	資料館において、平田地区の小学校に関する企画展や市指定文化財にもある円空仏の企画展の開催や、海津市の歴史をテーマにしたミニ講座を実施するなど、歴史を身近に触れる機会を提供することができた。	○
課題	出前講座や企画展を通して、歴史資源を積極的に活用するため、市民や学校などに定期的に情報提供していく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

④文化財指定基準の運用

取組目標	海津市文化財保護条例に基づき、保存及び活用のための必要な措置を行う。また、文化財指定基準に基づき、歴史的・文化的価値のある文化財を掘り起こすなど基準の運用を進める。	
年度計画	海津市文化財保護条例に基づき、文化財所有者・管理者に対する文化財保護事業補助金等の支援を実施する。	内部評価
実績成果	文化財保護事業補助金を交付し、文化財所有者や管理団体等の支援を実施した。 (2件：395千円、その他2件は中止のため未交付)	○
課題	文化財所有者や管理団体から意見を伺う機会を設けて、補助金だけでなく、文化財の保護や活用に必要な支援策を検討していく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



ハリヨ(市天然記念物)



早川家住宅(国重要文化財)

施策の総合点検評価

担当課

社会教育課

基本目標	5 文化の振興	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	16 豊かな自然と文化財を愛する心の育成		
施策方針	郷土の歴史や文化財に、誇りと親しみをもつことのできる普及・啓発活動を推進するとともに、市民が地域の文化遺産を知り、守り、伝えることによって、文化財愛護に対する意識高揚を図ります。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	早川家住宅保存活用計画策定に向けての準備として、文化財の概要等の整理や策定に当たっての課題の整理をし、文化的・観光的な地域活性化を目指す。 歴史民族資料館では、新型コロナウイルス感染症の影響により、企画展や講座等の開催に変更や規模縮小を行ったが、概ね予定通りに事業を実施し、目標値に達することができた。 リニューアル計画については、検討委員会を開催して展示更新の内容や手法の検討を行い、概要設計書を作成した。今後さらに具体的検討を重ね、実施設計の完了及び着工に向けた準備を進める。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R3)	目標値 (R3)
歴史民俗資料館 1日当たりの平均入館者数	38人	24人	20人

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和3年度の重点的な取り組み)

①文化財の情報発信と周知

取組目標	文化財マップなど郷土の文化を紹介・案内する資料を充実し、史跡巡りや学習会などを行って、郷土文化を知る機会の拡大を図る。また、文化財などを案内するボランティアガイド「ふる里おもてなし隊」との連携を図る。	
年度計画	ホームページの掲載写真等を見直し、文化財の魅力を伝えられる情報発信に努める。また、市史編纂事業について検討を進める。	内部評価
実績成果	ホームページの掲載写真の見直しは実施したが、更新するまでには至っていない。 文化財マップの更新は、更新内容等の確認を行った。	
課題	文化財マップは、2011年の改定以降作成されていない。その間、国指定文化財が2件追加されたので、更新作成する必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



ふる里おもてなし隊

②自然・歴史資源の発見と活用

取組目標	郷土の文化に触れ、自然景観を見て歩き、歴史を学ぶことができる機会を提供する。また、多様な分野における有識者の活用やメディアへの情報発信によるPRなどに努める。	
年度計画	歴史講座や体験プログラムなどを通じて、歴史文化資源の活用を図る。また、ホームページや広報メディアへの効率的な情報発信により広域でのPRに努める。	内部評価
実績成果	新型コロナウイルス感染症の影響により、企画展や講座等の開催に変更や規模縮小が生じたが、概ね予定通り実施した。	○
課題	講座や体験プログラムの周知について、市民だけでなくより多くの人たちに知ってもらい、海津の歴史文化資源の魅力を伝えていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③歴史民俗資料館運営の充実

取組目標	入館者が減少傾向にあることを踏まえ、より一層の調査・研究を進めながら企画展などの事業を展開していく。また、館内リニューアルを検討しながら入館者の増加を目指す。	
★年度計画	魅力ある歴史民俗講座や利用者の共感を得られる企画展示を実施し、リピーターの確保や新たな入館者の増加に努める。また、歴史民俗資料館の施設の充実を図るため、リニューアル検討委員会の助言に基づきリニューアル計画を進める。	内部評価
実績成果	社会見学来館校62校、企画展5回開催（合計入館者数 6,584名） 市内や近隣地域からの来館に加え遠隔地からの来館者や問い合わせもあり、本市の歴史文化に対する関心の高さがうかがわれた。 リニューアル計画については、改装工事の基礎となる概要設計書を作成し、改装工事に向けて計画を推進することができた。また、Wi-Fi環境を整備したことにより利便性を高めることができた。	○
課題	入館者の増加を図るため、資料調査や情報収集を進め、魅力ある企画展や講座を企画・開催する必要がある。 リニューアル計画を適切に進め、展示内容の更新と利用者のニーズに即した施設運営を行う必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



海津市歴史民俗資料館

施策の総合点検評価

担当課

社会教育課

基本目標	5 文化の振興	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	17 生きがいと共生、文化芸術活動の推進		
施策方針	地域の人々が、郷土の文化を愛し、生きがいを感じられるような文化活動や創作活動を支援します。また、質の高い芸術に触れる機会を提供することで豊かな心を育むとともに、市民参加型による芸術創作活動に取り組める環境づくりをします。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	新型コロナウイルス感染症のため、集合型となる活動に多くの制限があるため、Webでの開催や感染対策を十分に講じたうえで活動を行うなどして、市民参加の文化芸術活動の推進を行うことができた。その事業の目的を見直し、コロナ禍においても市民が参加できる活動を企画立案していく必要がある。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R3)	目標値 (R3)
市内の文化団体登録者数	1,557人	1,335人	1,700人

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和3年度の重点的な取り組み)

①市民文化活動への支援

取組目標	文化団体が行う活動は、これに参加する人たちが生きがいを見だし、自己表現ができる機会をつくるとともに、文化レベルの向上につなげていくことができる。このため、成果発表をする活躍の場を提供し、活動しやすい環境づくりに努める。	
年度計画	コロナ禍で文化展をWebで実施した結果を踏まえ、文化展の運営方法を検討し、市民が参加しやすい文化展を開催していく。また、文化協会をはじめとする文化団体の活動に対して補助金等の支援を実施する。	内部評価
実績成果	コロナ禍により2年連続で文化展をWebにて開催したが、昨年度より出展者数及び出品数ともに増加した。また、文化協会では、市民文化祭を規模を縮小して開催することができた。	○
課題	文化芸術作品を直接鑑賞することの意義を十分に考慮し、文化展等の開催方法を検討していく。また活動している市民の高齢化を踏まえ、どの年齢層においても参加しやすいような環境づくりを検討していく。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

②文化や芸術に親しむ機会の提供

取組目標	情緒豊かな心を育み感性を高めるため、幼少期から優れた文化芸術に触れ合う機会を提供する。	
年度計画	文化庁が実施する「文化芸術による子供育成総合事業(巡回公演事業)」を市内小中学校に周知し、幼少期から優れた芸術文化に触れ合う機会の提供を行う。	内部評価
実績成果	文化庁が実施する巡回公演事業の案内を小・中学校に毎年続ける中で、学校の先生方にも少しずつ浸透し、応募数が増えている。採択が決まり、実施された学校からは、公演に対しての高い評価を得ることができた。	○

課題	市内13校の中で、巡回公演を希望される学校に偏りがある。経費が文化庁の負担のため、学校行事等で調整ができるような場合は応募してもらえるように、どの学校にも呼びかけをしていく。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
----	---	--

③市民参加型による芸術創作活動の奨励

取組目標	多くの市民がともに創ることの喜びや生きがいを感じられるように、主体的に企画・創作する文化芸術活動を奨励し、推進に努める。	
★ 年度計画	コロナ禍の影響により苦境に立たされている状況でも芸術創作活動(市民創作ミュージカルの本公演事業が開催できるよう努める。また、主体的に企画・創作する文化芸術活動についてホームページやメディアなどの媒体を活用し、芸術創作活動のPRに努める。	内部評価
実績成果	新型コロナウイルス感染症に関する状況を考慮し、観客数を1/2とし、出演者は、マスクを着用するなど制限をしながら市民創作ミュージカルを開催することができた。 市民に芸術文化に触れる機会を創り出し、芸術文化への関心を持ってもらう環境作りを進めることができた。	○
課題	withコロナの中での練習及び発表の場となってしまう現状の中で、いかに安心安全な環境をつくり、練習をしていくかを十分に検討し、市民参加を呼びかけることができるような情報発信をしていく。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

④多様な文化芸術活動の支援

取組目標	文化芸術活動の活性化と人材育成を図るため、音楽や演劇をはじめとする様々な文化芸術活動を積極的に支援する。	
★ 年度計画	創設5年目を迎えるかいづっち合唱団の活動を、多くの市民に知ってもらえるようにPRを行い、団員を増やすとともに、子どもたちが音楽に親しめる環境づくりを継続していく。	内部評価
実績成果	設立5年目を迎えた「かいづっち合唱団」は、出演依頼が入るものの、新型コロナウイルス感染症の拡大により、事業が中止になり、練習が半分程度しかできない状況となり団員数が減少した。	○
課題	合唱団のレッスン及び発表の場において、対面不可の隊形、少人数制限など新型コロナウイルス感染対策のための改善点が多かったため、本来の鑑賞ステージが維持できていない。歌とダンスの本来の楽しさが追及できるよう創意工夫を重ね、団員数の増加に繋げていく。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



かいづっち合唱団



市民創作ミュージカル

基本目標6

スポーツ活動の振興

(スポーツ課)

施策の総合点検評価

担当課

スポーツ課

基本目標	6 スポーツ活動の振興	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	18 スポーツ活動の充実		
施策方針	市民が健康で活力のある生活が送れるように、各々のライフスタイルやライフステージに応じた、参加できるスポーツ活動の機会を提供します。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、計画した事業の大半が実施できなかった。コロナ禍においてできることを考え、併せて、市報やチラシでのPRや、関係団体との連絡協議等を行い、引き続きスポーツ活動の機会の提供を進めていく。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R3)	目標値 (R3)
体育大会 参加者数	1,143人	0人	1,500人

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和3年度の重点的な取り組み)

①子どものスポーツ活動の推進

取組目標	子どもの健全育成のため、スポーツ少年団や学校部活動などスポーツの活動の場となる団体等の活動を支援する。	
年度計画	体育協会・スポーツ少年団・学校部活動・中学校地域クラブの連携を図り、子どものスポーツ活動の場となる団体等の活動の支援をする。	内部評価
実績成果	新型コロナウイルス感染症の影響により、リーダー研修会は中止となったが、西濃地区交流大会は、時期及び内容を変更して実施し、16名の団員が参加した。また、指導者研修会(30人)及びスタートコーチ養成講習会(22人)に指導者を派遣し、指導者の育成支援を行うことができた。	○
課題	引き続き新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの活動を行う必要がある。また、少子化や生活環境の変化などの影響に伴う団員数の減少により、新規の団員の確保が困難な状況にある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

②高齢者や障がい者スポーツ活動の推進

取組目標	室内でも気軽にできるスポーツ教室を開催し、高齢者や障がい者が楽しくスポーツに親しむ機会を提供するよう努める。	
年度計画	だれもが気軽に参加できる軽スポーツ教室の開催に努める。また、出前講座を通じて、様々な人が軽スポーツを体験できる機会をつくる。	内部評価
実績成果	新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年に引き続き、各種団体・サークルに対する出前講座の実施はなかったが、スポーツ推進委員(20人)を中心に、軽スポーツ教室を開催し、軽スポーツによる健康維持を呼びかけることができた。	△

課題	引き続き新型コロナウイルス感染症対策を行いながら活動を行う必要がある。また、開催する軽スポーツや運動会などの行事は、幅広い世代の市民を対象としており、参加しやすい種目など工夫する必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
----	---	--

③市民参加型スポーツ活動の推進

取組目標	体育協会・スポーツ推進委員と連携して、各種スポーツ大会を開催するなど、地域を核としたスポーツ大会の内容の充実を図り、だれもが気軽に楽しめる市民参加型のスポーツ行事を開催する。	
★ 年度計画	新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、体育協会・スポーツ推進委員・各地区体育推進員と連携し、地域を核とした市民参加型のスポーツ行事を開催する。	内部評価
実績成果	各種スポーツイベント（軽スポーツ大会、地区運動会、タスポニー大会など）の実施に向けて準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。	△
課題	新型コロナウイルス感染症対策を行いながら活動を行う必要がある。また、下多度、城山、石津地区の軽スポーツ大会が参加者の減少などで縮小傾向となっているため、事業の見直しを図る必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

④スポーツ観戦機会の創出

取組目標	「みる」スポーツを通して、さらに市民のスポーツに対する意識高揚を図るため、ボート、カヌー及びトライアスロン競技など本市の特徴的なスポーツ環境を生かし、スポーツ観戦機会を創出し、競技への関心を高める。	
年度計画	トライアスロン大会などの長良川サービスセンターで開催される各種スポーツ大会への支援・PRを行うことで、競技への関心を高める。また、FC岐阜ホームタウンデーの事前周知を行い、スタジアムでの観戦機会を創出する。	内部評価
実績成果	長良川サービスセンターで開催予定であった各種スポーツ大会（トライアスロン・レガッタなど）が新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。また、5月30日にFC岐阜ホームタウンデー（Y. S. C. C. 横浜戦）が開催されたが、新型コロナウイルスの影響のため、参加を取りやめることとなった。	△
課題	各種スポーツ大会開催団体との連携をとりながら周知を行い、より多くの市民への観戦機会を創出する必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

施策の総合点検評価

担当課	スポーツ課
-----	-------

基本目標	6 スポーツ活動の振興	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	19 スポーツ施設・備品の充実		
施策方針	市民が気軽に安全かつ快適にスポーツ活動ができるように、施設の充実を図ります。また、スポーツ備品の充実を図り、貸出しにより市民や団体のスポーツ活動への参加を支援します。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分	評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S 予定以上に進んでいる	A	市内のスポーツ施設については、老朽化の修繕や環境改善を予算範囲の中で適宜行っているが、施設の充実を図るため、整理統合も含めた施設配置の適正化を検討していく。 地区体育館について、残存する3施設の地元自治会等と協議を継続していく。
A 予定どおり進んでいる		
B 少し遅れている		
C 大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R3)	目標値 (R3)
スポーツ推進委員の活動回数	37回/年	16回/年	40回/年

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和3年度の重点的な取り組み)

①体育施設の充実

取組目標	社会体育施設の計画的な統廃合を進め、利用者が安全で快適にスポーツを楽しめるように環境づくりを進めるとともに施設の長寿命化とグラウンド・ゴルフ場の拡充を目指す。また、市民が身近な場所でスポーツを楽しめるよう、教育施設のスポーツ開放を継続的に進める。	
★年度計画	ライフスタイルの多様化によるレクリエーション需要の低下や社会環境の変化による体育施設の集約化に伴う事業を進める。また、スポーツ施設の運営管理と施設維持のための改修・修繕工事などを施し、安全で安心な環境づくりを図る。	内部評価
実績成果	南濃テニスコートの砂入り人工芝改修や、各体育施設の照明、スポーツ用器具など、延べ約31件の修繕・改修を行い、長寿命化に努めるとともにスポーツ施設の環境改善につながった。また、廃止した地区体育館5施設のうち、2施設の解体を実施した。	○
課題	平田体育館の耐震補強や施設のLED化など長寿命化を図るとともに、施設の統廃合について検討する必要がある。また、残存する地区体育館3施設について、取壊しに向けて地元自治会等と協議を進める必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

②スポーツ備品の充実

取組目標	市民や団体のスポーツ活動を支援するため、スポーツ備品の充実を図り、出前講座などを通じてスポーツ備品である貸出品を利用した軽スポーツ教室を開催していく。	
★年度計画	スポーツ活動の支援をするため、スポーツ備品の充実を図る。また貸出品を利用した出前講座・軽スポーツ教室を開催する。	内部評価
実績成果	グラウンド・ゴルフ用品やポッチャなど、市民向けに16件のスポーツ備品の貸出を行った。また、スポーツ推進委員との連携により軽スポーツ教室を開催し、延べ1,376人の参加を得ることができた。	○
課題	スポーツ備品の貸出について、さらなる周知が必要である。また、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら活動を行う必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

施策の総合点検評価

担当課	スポーツ課
-----	-------

基本目標	6 スポーツ活動の振興	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	20 スポーツ指導者・団体の育成		
施策方針	体育協会などの既存のスポーツ団体及び総合型地域スポーツクラブの活動を支援します。また、スポーツ指導者研修の充実を図ります。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分	評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S 予定以上に進んでいる	A	中学校部活動の土日等休日地域移行について、総合型地域スポーツクラブや体育協会などと連携し、協議を進めた。土日等休日の活動について、円滑に移行できるようさらに検討を重ねていく。
A 予定どおり進んでいる		
B 少し遅れている		
C 大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R3)	目標値 (R3)
—	—	—	—

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和3年度の重点的な取り組み)

①スポーツ団体の育成

取組目標	体育協会などのスポーツ団体及び総合型地域スポーツクラブの活動を継続して支援しつつ、競技団体などの統廃合・法人化を検討し、持続可能な組織への転換を支援する。	内部評価 ○
年度計画	各団体の活動を継続して支援しつつ、スポーツ団体間の連携を促し、それぞれの活動の活性化や、運営の効率化などを進める。	
実績成果	体育協会に補助を行い、事務指導などの面において支援及びクラブ運営の推進を行った。また、2つの地域スポーツクラブに対し、県事業により事務指導などの面において支援を行い、クラブ運営の充実につながった。	
課題	各団体がそれぞれの活動を行うのみで、横のつながりが弱い状況であるため、代表者会議等を継続的に開催する必要がある。	



南濃スポーツクラブ



スマイルクラブこん平田

②指導者の育成と確保及び活用

取組目標	スポーツ指導者に対する研修を充実し資質の向上を図り、市民ニーズに合った指導が行われるように指導者間の情報交換や情報共有を進める。また、教職員の働き方改革の推進に伴い部活動のクラブ化を関係機関と連携し検討する。	
★年度計画	スポーツ指導者の研修の情報提供・情報共有を図り、指導者の育成と資質向上に努める。また、学校部活動のクラブ化の検討を関係団体とともに計画的に行う。	内部評価
実績成果	スポーツ少年団指導者研修会に指導者を派遣し、指導員の育成を行った。また、中学校部活動の土日等休日地域移行について、総合型地域スポーツクラブを中心として生徒の受け皿となる地域クラブを設立できるよう、検討会議を行った。	○
課題	スポーツ指導者の確保については、市体育協会・県スポーツ協会等の関係団体と連携し、指導者講習会を開催するなど指導者の育成を図る必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③競技スポーツ活動の支援

取組目標	本市出身の世界で活躍が期待される五輪選手や五輪候補選手を支援する。特に東京2020オリンピック・パラリンピックを重点的に応援する。	
★年度計画	東京五輪事前キャンプ誘致を引き続き実施する。また、本市出身の世界で活躍が期待される五輪選手や五輪候補選手を支援する。	内部評価
実績成果	東京五輪事前キャンプ誘致については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、受入れを断念し、誘致活動を終了した。また、東京五輪陸上女子1万mに出場した本市出身の安藤友香選手に対し、市より激励金を交付した。	○
課題	次のパリ五輪に向けても、後援会と連携しながら引き続き支援していく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



オリンピックテレビ観戦応援



安藤友香選手オリンピック出場報告

IV 教育委員会の施策 外部評価

(1)外部評価一覧表

第2次海津市教育振興基本計画 「基本目標」	
【基本目標の施策】	担当課
基本施策	外部評価
「基本目標1」 子ども・子育て支援の充実	
【施策1】 就学前教育・保育の総合的な提供	こども課
① 認定こども園における幼児教育の推進	継続・妥当
② 小学校との連携	
③ 配慮が必要な子どもへの支援	
④ 就学前教育・保育施設の整備	
⑤ 保育教諭の資質向上	
【施策2】 子育て家庭への支援の充実	こども課
① 多様な子育て支援サービスの充実	拡充・推進
② 相談体制の充実	
③ 情報提供の充実	
「基本目標2」 学校教育の充実	
【施策3】 生きる力を育む教育の推進	学校教育課
① 「軸」を明確にした学校経営の推進	継続・妥当
② 確かな学力を身につけることで「生きる力」を育む指導の充実	
③ 基礎的な知識・技能を着実に身につける指導や取組の充実	
④ 思考力・判断力・表現力などを育成する指導や取組の充実	
⑤ 学びに向かう力を高める取組の充実	
⑥ 多様なニーズを要する子どもに対応した教育機会の充実	
⑦ 外国語活動の充実	
⑧ キャリア教育の推進	
⑨ 郷土学習の推進	
【施策4】 教育環境の整備・充実	教育総務課・学校教育課
① 学校施設の老朽化対策及び長寿命化対策の推進	継続・妥当
② 教育環境における情報機器設備の充実	
③ 安全な通学路の確保	
【施策5】 豊かな心の育成	学校教育課
① 道徳教育の充実	継続・妥当
② 多様な体験活動の推進	
③ 人権同和教育の推進	
【施策6】 教職員の資質の向上	学校教育課
① 「海津市教育のスタンダード」の活用	継続・妥当
② 教職員研修の充実	
③ 特別支援教育に関わる教職員の研修	
④ 研究授業や公開授業、交流授業などの促進	
⑤ 子どもと向き合う時間の確保	
【施策7】 学校給食の充実及び食育の推進	教育総務課(給食センター)
① 地域全体で取り組む食育の推進	継続・妥当
② 学校給食の充実	
③ 学校給食の衛生管理と事故防止の徹底	
④ 学校給食センターの効率的な運用・整備	
⑤ 学校における事務負担の軽減	
⑥ 給食の提供における緊急対応	
【施策8】 児童・生徒の減少に伴う課題の検討	教育総務課
① 海津市小中学校の適正規模等に関する検討委員会の設置と協議	継続・妥当
「基本目標3」 生涯学習環境の整備・充実	
【施策9】 継続的な学習・交流の場の形成	社会教育課
① 生涯学習ニーズの把握	継続・妥当
② 学習情報の収集・整備	
③ 社会教育施設などの整備とネットワーク化	

第2次海津市教育振興基本計画 「基本目標」

【基本目標の施策】	担当課
基本施策	外部評価
「基本目標3」 生涯学習環境の整備・充実	
【施策10】 多様な学習機会の提供	社会教育課
① 生涯学習活動と指導者の育成	継続・妥当
② 生涯学習の意識啓発	
③ 図書館や歴史民俗資料館などの学習機関の機能充実	
【施策11】 新たな学習活動への支援	社会教育課
① 学習活動を支援する人材の活用	継続・妥当
② 高齢者のもつ技能の伝承	
③ 学習機会の充実	
「基本目標4」 青少年の健全育成・地域交流の推進	
【施策12】 地域で進める青少年の健全育成	社会教育課
① 「こども健全育成指針」の推進	継続・妥当
② 子どもの生活習慣の確立に向けた支援	
③ 組織的な活動の充実	
④ 青少年教育の充実と地域社会の教育力の向上	
【施策13】 家庭と地域の教育力向上の推進	社会教育課
① 「あたりまえ」のことができる家庭教育支援の推進	拡充・推進
② 子育て学習の提供と家庭教育相談体制の充実	
③ 地域と連携した活動の充実	
【施策14】 地域間交流・多文化共生の推進	社会教育課
① 交流教育の充実	継続・妥当
② 多文化共生の推進	
「基本目標5」 文化の振興	
【施策15】 文化の継承と発展	社会教育課
① 指定文化財の保存・保護活用、後継者の育成	継続・妥当
② 文化財や伝統芸能の資料収集及び調査研究	
③ 文化資源の活用	
④ 文化財指定基準の運用	
【施策16】 豊かな自然と文化財を愛する心の育成	社会教育課
① 文化財の情報発信と周知	継続・妥当
② 自然・歴史資源の発見と活用	
③ 歴史民俗資料館運営の充実	
【施策17】 生きがいと共生、文化芸術活動の推進	社会教育課
① 市民文化活動への支援	継続・妥当
② 文化や芸術に親しむ機会の提供	
③ 市民参加型による芸術創作活動の奨励	
④ 多様な文化芸術活動の支援	
「基本目標6」 スポーツ活動の振興	
【施策18】 スポーツ活動の充実	スポーツ課
① 子どものスポーツ活動の推進	継続・妥当
② 高齢者や障がい者スポーツ活動の推進	
③ 市民参加型スポーツ活動の推進	
④ スポーツ観戦機会の創出	
【施策19】 スポーツ施設・備品の充実	スポーツ課
① 体育施設の充実	継続・妥当
② スポーツ備品の充実	
【施策20】 スポーツ指導者・団体の育成	スポーツ課
① スポーツ団体の育成	継続・妥当
② 指導者の育成と確保及び活用	
③ 競技スポーツ活動の支援	

(2) 外部評価（学識経験者による意見）

岐阜大学教授

小林 一貴

海津市教育委員会点検評価について

「令和3年度教育委員会の事務に関する点検評価報告書」に基づき、6つの基本目標における施策に沿って意見を述べさせていただきます。

基本目標1の施策1では、「今尾コスモスこども園」といった施設面の準備が進められつつある一方、保育教諭の資質向上のための取り組みが望まれます。施策2では子育て世代包括支援センターの活動が成果を上げつつあります。施設の確保と人的な支援が有効に機能しているようであり、子育て支援の重要性をふまえた一層の推進が期待されます。

基本目標2の施策3、4では、デジタル化、教科担任制、少人数教育等とともに、前年度に引き続き学習環境のデジタル化についての積極的な取り組みがなされています。施策5では体験学習や集会など、確実な取り組みが進められています。施策6では働き方改革を基盤として前年度までは困難であった教員研修が実施されてきております。施策7では生産者交流ができないなどコロナ禍の影響があるものの、地元産の食材の活用など積極的に進めていただきたいと考えます。施策8では学校の統合が着実に進められていますが、そこから派生する課題も視野に入れた計画、取り組みが求められます。

基本目標3における施策9では、市民主導型の生涯学習を進めるための努力が重ねられています。施策10では生涯学習の充実に向けた啓発活動が積極的に行われています。図書館のデジタル化も浸透しつつあります。施策11では、市民カレッジやキッズカレッジなどの開講が準備されており、子どもの生涯を見据えた取り組みに期待いたします。

基本目標4の施策12では、スクールサミットのような生徒・児童の側からの活動と、青少年の育成に向けた大人の側からの取り組みがバランスよく進められています。施策13では子育てについての相談業務の強化がなされつつあり、さらなる参加しやすい活動の周知と実施が望まれます。施策14は子どもの将来にとって重要であり、コロナ禍意向を見据えた取り組みが期待されます。

基本目標5、施策15ではハリヨの個体数増加がみとめられ、地域の特色を複合的に見つめる良い成果となっています。施策16では、文化財の情報発信、自然・歴史資源の発見と活用の課題に取り組まれる必要があります。施策17では、ミュージカルの公演をはじめ、未来を見据えた目標のもとに活発な取り組みが期待されます。

基本目標6の施策18、19では開催の難しさがあるものの、施設の更新、再整備と合わせて今後の将来像をどのように描くかが問われます。施策20については、前年度からの指導者の確保、育成が引き続き課題となると思われます。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、前年度の計画に基づいて推進されつつある施策と、やむを得ない事情から推進が困難な施策が認められます。実施が困難な状況においても計画や準備、問題の検討は進められてきており、実施方法の再構築の重要性が増してきていると言えます。また、子育て支援のように、さまざまな立場の当事者の関わりを持つことの重要性も増していると考えます。

令和3年度 教育委員会の事務に関する点検評価報告書

令和4年11月発行

発行/海津市教育委員会

〒503-0695

岐阜県海津市海津町高須 515 番地

TEL 0584-53-1467 Fax 0584-53-1608

<http://www.city.kaizu.lg.jp/>